

会 議 録

会議の名称		令和 8 年度第 1 回つくば市社会教育委員会議		
開催日時		令和 8 年(2026 年) 8 月 10 日(月)開会 14 : 00 閉会 16 : 00		
開催場所		つくば市役所 2 階 会議室 203		
事務局 (担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	阿部 治委員(議長)、渡辺 峰子委員(副議長)、 阿部 久美委員、飯塚 康弘委員、植竹 智央委員、 笠井 広子委員、金井 恵美委員、櫻井 良種委員、 高根 香織委員、丹間 康仁委員、難波 聡子委員、 藤岡 賢治委員、間野 聡子委員、水谷 浩子委員、 都澤 みどり委員		
	教育局	久保田教育局長、森田次長		
	事務局 生涯学習推進課	澤頭課長、山口参事、瓜阪課長補佐、岩田係長、柴崎社会 教育主事、柴原主務、伊藤主任、三村主任		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0
非公開の場合はその理由				
議題		社会教育事業 令和 7 年度実績報告・令和 8 年度事業計画について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第第	1 開会 2 委嘱状交付式 3 教育長挨拶 4 委員及び職員紹介 5 議長及び副議長の選出			

6	議事 社会教育事業 令和7年度実績報告・令和8年度事業計画について
7	その他
8	閉会

1 開会

○事務局

皆様こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。ただいまから令和8年度第1回つくば市社会教育委員会議を開会いたします。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、生涯学習推進課課長補佐の瓜阪と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

つくば市社会教育委員会議運営規則第7条の規定により、会議は在籍委員の過半数が出席しなければこれを開くことができないと定められております。本日の出席委員は15名ですので、会議を開催いたします。

また、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例により公開といたします。

2 委嘱状交付式

3 教育長挨拶

○事務局

始めに、本来は教育長より御挨拶するところですが、公務で欠席のため教育局長の久保田から御挨拶申し上げます。

《挨拶》

4 委員及び職員紹介

○事務局

次に、本日御出席いただきました委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。

《委員自己紹介》

○事務局

委員の皆様ありがとうございました。続きまして、事務局職員の紹介をさせていただきます。

《事務局紹介》

5 議長及び副議長の選出

○事務局

続きまして、当会議の議長及び副議長を選出したいと思います。選出につきましては、つくば市社会教育委員会議運営規則第2条の規定により委員の会議には委員の互選による議長及び副議長を置くとありますので、委員の皆様の中から御選出いただきます。では、議長及び副議長の選出等につきまして、皆様からの立候補や推薦等、御意見ございますか。

《事務局に一任します》

ありがとうございます。事務局に一任との御意見をいただきましたので、事務局案として、議長を阿部治委員、副議長を渡辺委員にお願いしたいと思います。ですが、いかがでしょうか。

《異議なし》

ありがとうございます。では、阿部議長と渡辺副議長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

《議長挨拶》

《副議長挨拶》

6 議事

○事務局

それでは、つくば市社会教育委員会議運営規則第4条第1項の規定により、議長は会議を主宰するとありますので、議事進行につきましては、阿部議長にお願いいたします。なお、議事録を取る関係上、御発言の際は、お名前を名乗られましてから御発言いただきますようお願いいたします。それでは、阿部議長、お願いいたします。

○議長

はい。それでは議事に入りたいと思います。

本日の議事は「社会教育事業 令和7年度実績報告・令和8年度事業計画について」です。流れとしては、まずは事務局から分野ごとの方針と総合評価について一括で説明してもらいます。その後、委員の皆様から分野ごとに区切って御意見をいただいていきます。

委員意見は事務局で取りまとめて、各課にフィードバックし事業に活かしていただくという流れになります。なお、各分野の話し合いは10分を目安に進行させていただきます。

それでは「資料1－1 社会教育事業 令和7年度実績報告・令和8年度事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

生涯学習推進課社会教育係、係長の岩田です。

今期より新たに社会教育委員をお引き受けいただいた方もおられますので、資料5「社会教育委員の手引き」を作成いたしました。時間の都合上、説明はいたしません但御活用ください。

それでは「社会教育事業 令和7年度実績報告・令和8年度事業計画」について説明します。資料1－1、1－2を使用します。最初に、資料1－2「つく

ば市社会教育推進体系」を御覧ください。令和7年度第3回社会教育委員会議で委員の皆様からいただきました御意見、御助言をもとに、つくば市社会教育推進体系を整理しました。

社会教育とは、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動と、社会教育法第2条で定められております。つまり、教育が行われる場によって学校教育、家庭教育、社会教育と定義されております。その中の社会教育は、地域住民が主体的に学び、その成果を社会に還元する「人づくり・地域づくり・つながりづくり」の役割を担っております。

体系策定の目的ですが、つくば市ではこれまで、資料6「教育大綱」の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」の実現のため、様々な社会教育に関する取組を行ってきました。この度、本市の社会教育が目指す姿像（理念）を明確にし、着実な社会教育の推進を図る取組を進めていきます。社会教育に関する事業を体系化して進捗を管理することで、社会教育全体の推進を図り、分野ごとに進捗を評価することで、全体のバランスを確認しながら、さらなる社会教育の振興を図ることを目的としております。

本体系の期間は令和8年度から5年間としています。

基本理念は「『一人一人の成長と地域の創造』につながるつくばの社会教育」を掲げております。これを推進するため、1「共生」2「子育て・健康」3「知識・教養」4「芸術・文化」5「スポーツ」6「情報・科学・歴史・文化財」7「地域・防災・環境」の7つの分野を設定し、各分野に係る事務事業を、それぞれの分野の方針に照らし合わせながら進捗を管理していこう、というものです。

事業は資料1－1 令和7年度実績報告・令和8年度事業計画にあります、3ページ目の社会教育推進体系事務事業一覧のとおり、全64事業（再掲除く）を抽出しました。参考までに申し上げますと、昨年度までは、抽出した13個の事

業について事業ごとに御意見をいただいております。しかしながら、全庁を見渡しますと、教育局のみならず、多くの部署で社会教育に関する事業を展開していることや、社会教育委員の皆様は、それぞれの知見に基づいたより包括的な御意見をいただき、社会教育を体系的に推進したいと考え、今回からこのような新しい事業評価の形をとらせていただいております。

各分野の評価方法については、資料 1－1 の 1～2 ページに記載してあります。簡潔に説明しますと、各事業の担当課が設定した、指標に対する評価、進捗に対する評価を平均し、A＋から E の 6 段階の評価としています。

各分野 1 枚目が総合評価、次ページから各事業の評価となっております。総合評価は事務局が取りまとめを行いました。個別事業は、担当課が作成したのになります。本日は個別事業についてではなく、総合評価の方を主軸に、人と人、活動と活動をつなぐ架け橋となる役割の委員の皆様からの視点で、包括的な御意見をいただけますとありがたく存じます。

それでは、分野 1 から順に説明していきます。分野 1 「共生」、方針は「多様な背景を持つ市民が、その能力を最大限に発揮し、生きがいを持って活躍できる地域社会を目指します。」、総合評価は A。評価の理由について、事業全体は概ね良好に進捗しております。講座・講演会・イベント等の開催、表現活動により、多様な背景を持つ市民の自立と社会参加を推進し、生きがいを持って活躍できる地域社会の実現に寄与しました。また、同じプログラムで異なる背景を持つ市民が協働することにより相互理解を促進しました。実績値が目標値に達しなかった事業もありますが、既存事業に一定の満足度が見込まれます。

以下は課題となります。高齢者及び障害者を対象とした事業では、講座・イベント等の安全管理と規模拡大の 2 つの相反する課題が存在し、事業参加者数が停滞する傾向があります。このため、事業の運営方法を改めて検討する必要があります。また、部局を跨いだ市全体で、各事業の目的達成に向けて、さらなる機運の醸成に努めていくことが重要であると考えております。

続いて9ページ、分野2「子育て、健康」になります。方針は「家庭の教育力や市民の健康意識を高めることにより、生涯にわたって心身の健康を保ち、豊かで幸せな人生を送れる地域社会を目指します。」、総合評価はB。評価の理由ですが、市内全域で普及啓発活動や講座、教室を実施することで、市民により多くの学びの機会を提供し、方針に掲げる家庭の教育力や市民の健康意識を高めることができました。また、講座や教室を通じて参加者同士の横のつながりを創出することで、悩みの共有や相互扶助に繋がるコミュニティの形成に寄与しました。さらに、講座を行う指導員・指導士を養成するなど、地域の人材育成にも取り組みました。事業の進捗状況は概ね良好ですが、実績値が目標値に達しない事業が複数認められます。

以下は課題となります。子育て世代の保護者や勤労者に事業への関心を持たせ、参加意欲を喚起するには、対象に応じた講座内容の充実、効果的な周知方法の工夫、ならびに開催時間など運営面の改善が必要です。また、健康に関する事業においてはリピーターが多い傾向が見受けられ、新規参加者の拡充が課題と捉えております。

分野3、14ページ「知識・教養」になります。方針は、「急速に変化する時代に対応できる知識・教養を習得することで、市民の自己実現と社会参画を推進し、豊かで活力ある地域社会を目指します。」、総合評価はB。評価の理由として、講座等については、休日や夜間にも開催することにより、新規参加の機会をふやすと同時に、人気の講座に偏ることなく、多様なテーマの講座を企画・実施することで、市民の参加意欲や満足度の向上を図りました。市民主体の実行委員会が企画する講座の開催、関連機関や研究者との連携による事業、さらには民間団体やボランティアと協力した施設の運営など、地域人材を活用した事業を展開することで、社会参画の推進と地域社会の活性を図っております。

以下は課題となります。引き続きニーズ調査を行い、講座等の魅力を高めな

がら参加者の増加を図るとともに、参加者のみならず、地域住民を巻き込んだ社会教育を展開することにより、継続的な地域社会の発展に取り組むことが必要と考えております。

分野4、19 ページ「芸術・文化」です。方針は「市民の文化的教養と創造性を育みながら地域文化の活性化を図り、社会参画を推進することで、文化的で豊かな地域社会を目指します。」、総合評価はB。評価の理由として、各事業の目的は主に、幅広い市民に対しての芸術文化に接する機会の提供、それからアーティストや活動団体に対しての支援という2点に分けられます。市民への機会提供においては、子どもや子育て世代を対象とした講座等により、幼少期からの触れ合いを促進し、芸術・文化に親しむきっかけを育むことができました。また、支援におきましては、「つくばアートスタジオたみやま」の活動拠点の整備や、文化施設等との連携により、継続的かつ主体的な文化芸術活動を促進し、社会参画を推進することができました。体験型ワークショップや、文化施設以外におけるアウトリーチ活動、若手アーティストの実地研修により、アーティストの活動の幅を広げ、市民の豊かな文化芸術の醸成に寄与いたしました。

以下は課題となります。一部の事業におきまして、講座の開催数や参加者数が目標値に達していない事例が見受けられるものの、一定の参加者数を維持しております。事業全体の満足度や、制度の利便性を向上させることが課題となっております。各事業においてフィードバックを収集し、継続的な改善を図ることが重要であると考えております。

続いて分野5、25 ページ「スポーツ」です。方針は、「生涯スポーツの推進、コミュニティの形成、競技力向上をとおして、市民の心身の健全な成長と社会的結びつきを推進し、スポーツの価値と喜びを享受できる社会を目指します。」、総合評価はA。評価の理由について、生涯スポーツの推進、コミュニティ形成、競技力向上の3つの視点から、分野内の授業は概ね良好に進捗しております。

生涯スポーツの推進では、スポーツを始めるきっかけづくりとなる体験講座や、各種スポーツ講座・大会を市、指定管理者、補助団体等において、計画どおり実施しました。また、民間団体主催のスポーツ教室の開催支援も実施いたしました。コミュニティ形成では、民間企業や各種スポーツ団体が一堂に会し、パラスポーツを含む各種スポーツの体験講座を開催するなど、障害者スポーツへの理解に寄与し、「つながり」の創出や、多様な交流を推進しました。競技力向上面では、市主催事業や補助団体、指定管理者施設等で実施する教室や大会を通じて、競技力の向上を図りました。

以下は課題となります。大会等におけるボランティアの参加や、地域住民からの応援の充実など、競技に参加しない市民も大会に関わる機会を創出することで、スポーツでつながるまちづくり・仲間づくりを一層意識して、事業を実施することを課題と捉えております。講座で学んだことを日常的なスポーツ活動につなげることもまた課題と考えております。

続きまして、分野 6、30 ページ「情報・科学・歴史・文化財」です。方針は、「市民が情報リテラシーや科学的思考を身につけ、地域の歴史等について学ぶことで地域社会への理解を深め、市民主体の持続可能な社会を目指します。」、総合評価はA。評価の理由について、事業全体は概ね良好に進捗しております。科学関連事業を筆頭に、研究学園都市のポテンシャルを活かし、つくば市民だからこそ体験できる事業を展開したことで、科学や地域社会への理解醸成に寄与しました。地域に密着した文化に関する講座の開催や、学習施設の運営を行うことで、市民の地域に関する関心や郷土愛を育成できました。また、ボランティアを育成し、各講座や施設内で活動の機会を提供することで、地域住民の社会参画を促進しました。今後、大学や研究所などの外部機関との連携をさらに深く進め、事業の活性化と充実化を図ることによりさらなる発展が見込まれます。目標値が未達成な事業も散見されますが、概ね好評を得ていると判断しております。

最後に分野 7、36 ページ「地域・防災・環境」です。方針は「市民の地域交流や防災、環境問題への理解を深め、主体的に学び、行動する力を育み、安全・安心で持続可能な地域社会を目指します。」、総合評価はA。評価の理由について、事業は概ね良好に進捗しております。市内全域で学校を核とした、地域連携の基盤を整備することで、学校と地域の信頼関係を育む仕組みを構築することができました。こちらはコミュニティ・スクールのことを指しております。また、学生ボランティアや地域住民の参画による地域人材の育成・活用と同時に、子どもたちへの豊かな体験学習の提供も定着しております。防災に関する事業では、出前講座やイベントを通じて、家庭や地域における防災対策の必要性を啓発し、市民の相互扶助による持続可能な地域社会を促進しました。環境に関する事業では、市民団体と協働した自然体験会を定期開催し、市民の身近な自然に対する理解を深める学習機会を提供することができました。青少年健全育成事業も目標を達成し、地域ぐるみで青少年を育成する意識が醸成されました。

以下は課題となります。イベント等の参加者数が低調な事業や、参加者が既存会員に限定される傾向が見られ、新規参加層の開拓が進んでいないようです。市民の活動意欲を高め、学習から実践への転換を後押しするために、市民ニーズの変化に対応した情報発信や支援を強化していく必要があると考えております。

総括として、7分野中総合評価Aが4分野、Bが3分野と、全体としておおむね良好に進捗していると考えております。説明は以上になります。

○議長

はい、ありがとうございました。

今期初めて委員になられた方々はどういうことを行っていたのかと思われたかもしれませんが、昨年度までは、こういうまとめ方ではなかったのですよね。生涯学習推進課の事業と社会教育に関する狭い範疇、例えば図書館、公民館（交

流センター) 等の報告を受けていました。

そのような中で、社会教育委員会議において、社会教育というものはもっと広く、つくば市が取り組んでいるかなり広範な社会教育を横串できるのではないかという意見が委員の方々からたくさん出ました。そこで、事務局も一緒に奮起してもらって、つくば市の社会教育の全体像を見ていこうじゃないかと。そういった中で7つの分野に整理してもらいました。

今回は従来の社会教育活動だけではなく、教育局以外の部署も改めてつくば市の社会教育だと、それぞれの活動を評価し提出してくださった。だから、他部局の方々からしてみたら余計な仕事をつくりやがってみたいに思っちゃるところもあるかもしれませんが、全体を良くしてくために大事なことだということを、教育局の方からも発信して行ってほしいと思っています。

では、報告いただきましたので、議論を各分野 10 分程度で進めていきたいと思います。初めに、分野 1 「共生」について、委員の皆様から御意見を伺いたいと思います。事務局の評価はAです。

高根委員、小学校の視点からいかがでしょうか。

○高根委員

私は前任校もつくば市だったのですが、今年は今鹿島小学校に転任しまして、体系の事業の中ですごく馴染みがあるものが国際理解講座ですね。外国人の留学生に来ていただいて、学校で出身の国について説明していただいたり、一緒に活動したり。外国人の子どもたちが多い学校は、普段から多文化に接する機会もあると思うのですが、前任校も今の学校もそれほど外国人の方が多い学校なので、機会を設けることによって、子どもたちがいろいろな方と接して交流できて、とても良かったと感じています。毎年開催していると思いますが、またお願いしたいなと思います。

それから、人権教室も毎年各学校で実施していると思います。学校の中でももちろん人権についていろいろ学ぶ機会がありますが、本校は民生委員もして

いる地域の方がいらして、子どもたちに人権教室を行っていただく予定です。本校は小規模校ですので、やっぱりいろいろな視点が入って学習を進めていけるという点では、これらの事業を活用していければとても良いと思っています。地域と学校とがいろいろつながりながら学んでいけるというところがありがたいことだと思っています。

○議長

ありがとうございました。難波委員、お願いいたします。

○難波委員

分野1「共生」にいきいきサロン事業とチャレンジアートフェスティバル事業がありまして、私の所属する社会福祉協議会も関わっている事業が含まれているということを、資料をいただいて知りました。このような体系の中で高齢者・障害者の部分も含めて、幅広く位置付けていることを感じております。様々な立場や背景を持つ人が、地域の中でともに暮らし活動していくための取組が幅広く行われていることがとても大切だと、この資料を見て感じました。

ただ一方で、せっかくこのような活動や参加の場があっても、必要としている方に情報が届かなければ、参加に繋がりにくくなってしまうのではないかなとも思っております。これまで参加している方だけでなく、まだ様々な活動に参加したことのない方や、興味を持っているがなかなかしつかりとした関心を持ちにくい方、情報を得る機会が少ない方にも、活動の存在や、参加方法を知ってもらえるよう、情報発信をさらに工夫していくことがとても大切だなとも思っております。

特に、誰でも参加できますとか、こういう活動がありますということがわかりやすく伝わって、初めての方でも安心して参加できる雰囲気づくりや環境づくりが参加の広がりにもつながるのではないかと、私どもも事業をしながら感じております。広報誌やホームページだけでなく、地域のつながりや、様々な場所や機会を活用しながら、幅広い世代や立場の方に情報を届けられたらいい

なと思っております。これは簡単ではありませんし、社会福祉協議会としても意識をしなくてはいけないところですが、こうした1つ1つの取組を、単独の事業として終わらせるのではなく、参加した人同士の交流や、新たなつながりを作ることで、知ることから参加すること、そしてお互いを理解することへと広がっていくのではと思っております。

今後も、より多くの市民が自分らしく地域と関わって活躍できる機会が増えていくことを、期待するだけではなく一緒に展開できたらと思っております。

○議長

ありがとうございます。

高根委員、難波委員がおっしゃったように、例えば昨今は外国人との問題として排斥・分断を煽る動きもあります。そのような状況の中で、つくば市は国際都市を標榜しておりますし、多様な方々がつくば市で楽しく生活できるという形にしていくことが大切だと。

同時に、外国人の方々だけではなく、障害を持つ方や高齢者を含め、本当に支援や機会を必要としている方とのつながりをどのように作るか、あるいは参加者同士がつながり、伝播されていくことが、事業を実施する上で大事だと思いました。

続けて、分野2「子育て・健康」について、委員の皆様いかがでしょうか。笠井委員よろしくお願いします。

○笠井委員

分野「子育て・健康」ということで、昨年度の実績報告を拝読させていただき、いろんな講演会や、社会教育指導員たちのサポートのもと学校を入口として開催している行事が多いことにより、支援が届きやすいのはとても良いことだと思って読ませていただきました。

学校を入口とすることによって多くの方が情報を得やすいが、逆に学校から離れている人たちにとって情報が行き届かない点が結構見受けられるのではな

いかと思いました。誰もが生涯にわたって心身の健康を保ち、豊かな人生を送れる地域を目指すならば、学校を入口として講演会等をすることは支援がとて
も広がりやすく良いですが、学校を通さない講演会、学校に繋がらない人た
ちへの講演会という点では、全ての分野においてあまり実施していないのかな
と、「誰もが」を目指すためにも1つ、何かないかなと思いました。

○議長

後半について、もう少し補足してもらえますか。

○笠井委員

学校を入口とする講演会はいろんな支援が届きやすいのがとても良く、利点
があるなと思いました。一方、学校を入口としない人たちへ、情報や講演会等
の企画が入っていないことが多いなと思いました。誰もが生涯に渡って幸せな
社会を目指すならば、その「誰もが」の中に入っていない人たちもいるのでは
ないかなと読んだところがあり、何かできないかなと思いました。

○議長

ありがとうございます。続けて、阿部久美委員いかがでしょうか。

○阿部久美委員

幼稚園が関係する事業ということで、家庭教育学級支援事業についてです。
幼稚園では、家庭教育学級の保護者の方と幼稚園が協力しながら、子どもたち
とおうちの方が学ぶサポートをしていただいております。家庭教育学級の係と
して保護者の負担もあるかと思いますが、幼稚園の方でもできる限りサポート
をしながら進められるよう取り組んでいます。

いつも社会教育指導員の方が保護者の方の学びたいところをすごく丁寧に聞
いてくださり、なるべくたくさんの方が参加できるようにも配慮していただき、
保護者の方も幼稚園の希望も入れていただきながら、子どもたちも一緒に学べ
る時間も少しでも作りたいという思いも、両方加味してサポートしていただい
ております。保護者の方も学級を通してつながりができたり、講師の先生と共

に学んだことが事後につながる学びとなったり、とても良い時間になったとすごく良い感想をいただいております。

子どもたち向けの講座も学び合うところがとても多く、子どもたちも体験が終わった後に、こういうところが気になったよとか、こういうところを今度頑張ってみようかなとか、すごく良い反応が見られております。本当にサポートしていただけていることを感謝しております。

○議長

ありがとうございました。では、植竹議員お願いします。

○植竹委員

私も家庭教育学級の支援事業のところで一言、気になったところがあります。家庭教育学級の講座の中で、スマートフォンの利用やSNSの利用についての注意喚起のようなことができたらいいなと思っています。

何故かという今、小学校・中学校で結構SNSでのトラブルが多くなっておりまして、トラブルが現れた際に保護者や子どもたち向けにSNSやスマホの利用についての講座を学校側でも行うのですが、どうしても来て欲しい人が来てくれないというジレンマがあります。

小学校1年生以下や未就学児に対処できるような、SNSやスマホのルール等を家庭教育のタイミングで取り上げると、家庭内で考える機会になるのではないかと思い、提案させていただきました。

○議長

ありがとうございます。間野委員はいかがですか。

○間野委員

家庭教育学級について、うちの子が小さい頃、学級生がお互いのお子さんを預け合いっこして、1人の親御さんが自分の子とどなたかのお子さんを見ている間に、手が空いたもう一方の親御さんが集中して講座を受けるという形でやっていましたが、それがすごく良かったという話がいまだに出るんですね。

人に預けていいんだという気持ちとか、預けても子どもは結構ちゃんと待っていてくれるんじゃないかとか、いろんな発見が生まれて親御さん同士の信頼関係もできたり、いろんな生み出すものがあつたことがやっぱり良かったです。いつの間にかそうじゃなくなってしまうと、保育ボランティアさんが来てくださって赤ちゃんを連れて見てくれている間に、講座を集中して受けるという形でやっています。

もちろんそれはそれで良いのかもしれませんが、以前に実施していた形で生み出されていたつながりづくりとか、子育てをしているときに自分の子どもを預けてもいい、誰かの子どもを自分が見られるというような、いろいろなものが生まれていく仕掛けのようなものが、すごく良かったと思っています。

家庭教育学級に限らず、他の高齢者向けの体操や健康づくりに関する事業もいろいろありますが、参加して終わりというよりは、その場でつながりができる、お互いの顔を覚えて知り合いを増やしていく、1人で頑張るよりも誰かと一緒の方が頑張れるというような、別の何かが生まれていくことにもつながっていくと思います。講座を実施するとき、そのような環境や仕組み、仕掛けに関わる工夫が、ちょっと今回の報告では見えにくいのですが、もっといろいろあつたら良いと思います。

あとは、やはりお子さんたちとか子育て中の方と御高齢の方、その間が結構すっぽり抜けるといいますか。お仕事などいろいろ忙しい世代にはなるので、その層に向けてといっても、なかなか集まってもらえなかったり余裕がなかったり難しいから、対象になりづらいのかなとは思いますが、実は一番つながりが欲しかったりするのではないかと。

それこそ仕事だけではなくいろんなところに視点を向けられるような意味でも、何か仕掛けづくりのようなものができたら良いのにと、資料を見ながら感じました。

○議長

ありがとうございました。「子育て・健康」は私たちの生活そのものなので、皆さん関心が高いと思います。先ほど笠井委員がおっしゃったように、子育ての場合も、学校から入るとやりやすいが、学校外もありますよね。植竹委員が不登校の子どもたちのために取り組まれておりますが、そのようなルートといえますか、学校と社会教育が補完し合い、連携していくことが必要なのかなと思っています。また SNS の問題についても、日本政府も規制について議論を始めてきましたが、本当に大事なことだと思います。

間野委員もおっしゃいましたが、分野 1 「共生」と同じように、社会教育全体でもそれぞれのつながりがあると思いますが、参加者同士がつながっていく、そしてお互いが元気になっていくということは、特に子育て世代や高齢者はそうかもしれません。そのような意義を、今後の事業を考えていく上でも大事ではないかと思っています。

では分野 3 「知識・教養」です。渡辺委員お願いします。

○渡辺委員

分野 3 について、本当に様々な講座等を開講し、学びの入口をすごく広げてくださっているなと感じました。特に人間学講座ですが、目標値 330 人に対して実績値が 775 人と大きく上回っており、これは市民主体の実行委員会が主催しており、行政が一方的に学びを提供するというのではなく、市民自身が学びをつくるという点が、社会教育として高く評価できるのかなと思いました。

一方、社会教育振興事業ですが、社会教育講演会の参加者数が 112 人で指標評価が 1 ということです。参加人数を増やす努力も必要ですが、講座の開講数や参加者数、施設利用者数といった数字だけでは計れないものも多いのが社会教育なのではないかと思っています。

この分野の方針に「市民の自己実現と社会参画を推進し」とあるように、学習後に市民活動やボランティア、地域活動に参加したというような声が聞けると良いのかなと思っています。誰に届いて、何を学んで、学んだその後の行

動ですよね。地域貢献に繋がったという、それが社会教育なのかなと思っており
ますので、数・量も大事ですが質の評価も必要になってくるのかなと思いま
した。

○議長

ありがとうございました。では、事務局から御意見があります。

○事務局

生涯学習推進課の担当事業のため補足させていただきます。社会教育講演会
の参加者数について、毎年ほとんどの場合つくばカピオを会場として実施して
いますが、昨年度は日程の折り合いがつかず、会場をイーアスホールに変更し
て実施しました。イーアスホールの定員が少なく、満員の状態では実施いたし
ましたが、実績値自体は少なくなっております。

○議長

ありがとうございます。金井委員、お願いします。

○金井委員

事業４の地域交流センター主催行事ですが、今回は大まかな数字だけですが、
やはり毎回、平日昼間の講座は多いが夜間の講座が少ないです。平日昼間は参
加できる方が少ないから、夜間の講座を増やして欲しいという意見が毎回出て
いたと思うのですが、その中でもまだ３講座というのは少ないと思いました。
もう少し増えていくといいなと。

○議長

ありがとうございます。金井委員がおっしゃったように、昨年度の会議でも
夜間の講座がもっと開催できるといいねという意見が出ましたが、これまでも
おそらく事務局としても頑張っていらっしゃると思いますので、引き続きよろ
しくお願いいたします。

それでは、分野４「芸術・文化」について、いかがでしょうか。丹間委員、
お願いします。

○丹間委員

「芸術・文化」について、教育委員会内外の課が関わっています。他の分野もありますが、生涯学習推進課が核となりながら、全庁的に市民の自由で主体的な学びを整備することが、つくば市にとって大事なところと感じました。

事務事業一覧の備考欄のとおり、再掲という形で1つの事業が複数の分野に跨っていることが大事なのかなと思います。行政の整理としては、このようにツリー形式で、基本理念のように大きな目標が1つあり、分野・方針の柱があって、その中で主な事務事業とつながると思います。しかし、市民の生活・学習の視点からはそのような垣根はなく、分野を跨ってくるものだと考えると、「芸術・文化」では、事業番号9・10が、分野横断の事業であると理解しました。

家庭教育学級支援事業については、分野2「子育て・健康」の再掲の事業ですが、評価と今後の計画を違う視点、「芸術・文化」の視点で別の評価表を作成しています。一方で、チャレンジアートフェスティバル事業については、分野「共生」で掲載したものと全く同一の内容になっていますので、ぜひ他の所管に関しても、分野ごとにそれぞれ書き分けをお願いできるのではないかと思います。

それから2点目は質問でもあるのですが、指標値がわかりにくいものがございました。事業1の参加率、事業2の入場率について、何が分母・分子かわかりづらかったので、評価を受けとめづらかったです。

全体にも関わることですが、評価のための評価にならないことが大事だと思います。改善のための評価であるべきだと考えていますので、全ての事業において、なぜこの指標値なのかということを、しっかりと踏み込んで考えていただきたいと思いました。全体的に人数を指標としている事業が多いのかなと。一部満足度が指標の事業もありましたが、先ほどの参加者の広がりを考えて必要な人に届けていくという難波委員の御意見を踏まえると、むしろ満足度より

新規の参加者数を指標とすべきではないかなど、指標について、丁寧に設定して次の改善につなげられるように見ていく必要があると思いました。

もう1つ、「芸術・文化」については、計画どおり進むことも大事ですし、人数が集まったことも大事ですが、新しい価値が創造されるという部分がとても大事ではないかと思いました。その部分はどうしても数字だけで見るのが難しい面もあります。先ほど渡辺委員から質の評価に踏み込んでいく必要があるという御発言がございましたが、私も全く同感でして、ぜひ令和7年度の成果・課題の部分に質的な記述を増やしていけると良いと考えます。

○議長

ありがとうございました。丹間委員から、指標は改善のための評価であるべきという視点、また、再掲の事業は分野ごとに書き方を変える必要があるのではないかという御意見がありました。あるいは、新しい価値の創造についてなど、大事な視点が提起されました。

今回初めて体系に基づいて事業を評価しまして、来年度からも委員の方々も今回を踏まえた改善について考えいけると良いと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、分野5「スポーツ」です。都澤委員よろしくお願いします。

○都澤委員

私が代表を務めるバレーチームは、スポーツ協会やスポーツフェスティバルにも参加させていただきお世話になっておりますが、年々参加団体やアクティビティーも増え、地域とのつながりがとても強くなっていると感じております。また、健常者だけでなく障害者スポーツも充実していて、スタンプラリーでいろいろな競技にチャレンジすることで、障害者スポーツを知る良いきっかけになっているとも感じております。

一方で、スポーツと言えばやはり、競技に参加することにどうしても意識が向いてしまうとは思いますが、スポーツを観る・支えるということもすごく大

事な要素です。事業3「マラソン大会の開催」にもありますが、ボランティアや沿道の応援の充実など、そのような、観る・支えるという部分にフォーカスしてもよいのではと感じております。

○議長

ありがとうございます。つくば市はスポーツが盛んな方ですね。都澤委員からお話がありましたように、健常者だけではなく障害者の方々なども、スポーツだけでなく全体を通じて、情報が届くようにする、地域とのつながりを作ることが大切だということですね。

「スポーツ」評価の理由の最後にもありますが、日常的なスポーツ活動につなげるという部分も非常に大事だと思います。

続けて、分野6「情報・科学・歴史・文化財」です。植竹委員、お願いします。

○植竹委員

事業4「次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業」について、目標値が200人に対して実績値が647人と、目標値を超えていますが、進捗状況評価が4です。目標値を3倍も超えているのでしたら、進捗状況評価も5で良いのではと思ったのですが、こちら事務局に質問してよろしいでしょうか。

○事務局

指標評価は5ですが、進捗状況評価については、事業全体の進捗に対する評価のため、指標値を達成したという点だけでなく、事業内の他の取組の進捗も含まれます。そのようなことを踏まえ、担当課が総合的に進捗状況評価4と判断したのだと思います。

○植竹委員

ありがとうございます。さらに伸びしろがあるということすごいなと思います。

○議長

ありがとうございます。櫻井委員、お願いいたします。

○櫻井委員

まず、先ほど植竹委員が言ったことに関連する部分からお話しします。指標値について、それぞれの担当課で作成しているため難しいかもしれませんが、例えば、事業1は昨年度の目標値4,000人、実績値2,500人、今年度の目標値3,000人。一方、先ほどの事業4は実績値647人に対して昨年度と同様に今年度も目標値200人では少しもったいないように思います。この事業だけではありませんが、次年度の目標値の立て方の根拠となるものが、ある程度一定だとわかりやすいと思いました。

それから、科学に関する部分は、つくば市のポテンシャルが活きている事業が多く素晴らしいと思っています。つくば科学フェスティバルも、そのようなポテンシャルを活かしながら市として実施する事業であるということが見えてとても良いと思いました。市であれもこれもやるというより、様々な所が取り組んでいるものを市が活かし事業化している点が素晴らしいと思いました。

私も高校側として、ぜひいろいろな形で関わっていきたいと思うものがありありがたいです。

○議長

ありがとうございました。藤岡委員、お願いします。

○藤岡委員

数字を見るだけではなかなか判断が難しいところがありますが、つくばちびっ子博士事業について、現場で参加者数5万人達成はすごいなと、そんなに集まるんだと思いました。動画の満足度も91%と、ものすごく努力されたんだなと感じました。

猛暑の中での開催について課題に挙げていますが、危機管理面でも考えているのだなと思いました。できれば秋とか冬まで延期したり、屋内のデジタルラリーにしたりすると、もう少し幅広く実施できるのかなと思います。

つくば科学出前レクチャー事業について、申請フローにおいて担当者の負担を減らしたいという気持ちがあります。Google フォームや Web 申請等、そのようなシステムを使うと面白いのではと思いました。

また、先ほどもお話が出ましたが指標に関して、例えば図書館ボランティア事業の指標は登録者数となっていますが、実際に活動している回数はもっとあるのではないかと思います。登録された方がどれくらい活動しているかという指数でも良いのではないかと思います。人数ではなく質が問われるのではないかと丹間委員もおっしゃっていましたが、一生懸命 1 人の方が何度も活動しているのに、そういった部分が数字にあらわれないと寂しいなという気持ちでいっぱいです。

つくば市はやはり、科学分野が強みだと思います。その強みをどんどん出してもらいたいという思いがありまして、STEAMコンパスなども計画を立てられており、ものすごく期待しています。これを横断的に、例えばちびっ子博士や科学フェスティバル、科学教育の振興、出前レクチャーなど、STEAMコンパスの配下に統合的に入れられれば、もっと盛り上がっていくのではないかと、科学のまちつくばの良いところがオープンに出るのではないかと思います。

学校教育では「氷が溶けると水になる」と言いますが、社会教育では「氷が解けると春になる」と言う。そのような表現が、社会教育の一環だと思います。水じゃなくて、春になったり、道ができたり、川の水が増えたり、花が咲いたり、そのような結びつきが社会教育ではないかと思います。

○議長

ありがとうございます。分野 6 「情報・科学・歴史・文化財」は、サイエンスシティとしても、歴史も文化財も、本当につくばならではのですね。藤岡委員からお話があったように、STEAM教育も中高では非常に流行っています。このような事業と連携しながら、いろいろなものをつないでいくということが大事なのかなと思います。

それでは最後、分野 7「地域・防災・環境」です。水谷委員、お願いします。

○水谷委員

事業 1 の区会活動振興事業ですが実績値が低く、区会活動自体が縮小傾向になっているのではと思いました。電子回覧の実証実験を実施しているとのことですが、私の地区の自治会も電子回覧ですね。紙で配ったり回覧したりするのはもう大変だということになりました。それ自体はすごく良いのですが、どうしても見逃してしまうことがありますので、電子回覧については、ここは絶対に見て欲しいとか、目立つよう星印をつけるとか、見逃さないよう少し工夫して改善していただけるといいかなと思いました。

また、事業 13 のコミュニティ・スクール導入事業について、指標値が導入学園数で、目標・実績ともに 18 学園と、全学園達成していますので、もっと違う指標があった方が良いのではと思います。コミュニティ・スクールが既に活動している学園もあるので、実際にコミュニティ・スクールを使って講師を呼んで何か取り組んだなど、そのような指標でも良いのではと思いました。

最後に、事業 16 のつくばSDGs パートナー講座について、私もSDGs パートナーズの会員で、すごく良い講座です。すごくいい講座ですが、人が来ないというのは、パートナーズにしか周知してないからではないかなと思います。本当に良い講座なので、市民全体の社会教育の場としてとらえて、たくさんの人に来ていただけるような情報共有ができると良いと思います。

○議長

ありがとうございます。事務局から、御意見をどうぞ。

○事務局

コミュニティ・スクール導入事業の指標値について、水谷委員のおっしゃるとおり、令和 7 年度に全ての学園にコミュニティ・スクールの導入が完了いたしました。今後は、また違う指標値の設定、見直しをかけるものと思われます。

○議長

そうですね、コミュニティ・スクールは既に導入し、次はどのように地域と学校が連携していくかという課題がありますからね。

次は植竹議員、お願いします。

○植竹委員

私もコミュニティ・スクール導入事業に関して、全学園が導入したということは大変すばらしいと思いつつ、コミュニティ・スクールを先進的に行っている自治体では、地域学校協働活動推進員というコーディネーターと呼ばれる人たちが結構孤立しており、どう運営していいか、どう地域と学校の調整をしていいかと困ってしまう話をよく聞いております。そのようなコーディネーターのフォローアップが、今後必要になっていくのではと思います。

先進的な事例としては、笠間市がコーディネーターのフォローアップに取り組んでいると聞いているので、担当課の方で調整してもらえたらと思います。

○議長

ありがとうございます。では金井委員、お願いします。

○金井委員

実は、この会議の中にコミュニティ・スクールのコーディネーターが、渡辺委員、飯塚委員、間野委員、私と4人おります。私たちは孤立していませんが、もし孤立している人がいるのであれば、生涯学習推進課で情報共有の会を開催しているので、もっと情報共有を行い、自分の学園だけではなく全体がうまく機能するように運営していかなければならないと感じました。御意見ありがとうございました。

○議長

ありがとうございます。丹間委員、お願いします。

○丹間委員

コミュニティ・スクールに関連して、実際に地域学校協働活動推進員の方や学園協議会の委員の方もこの会議にはいらっしゃいますので、社会教育委員会

議として考えていきたいのは、コミュニティ・スクールという仕組みが導入されたなかで、生涯学習関連事業の間でも、この仕組みはかなり深く関わっているのではないかとことです。

例えば、コミュニティ・スクールでは、学校運営の方針についての協議はもちろんですが、子どもたちが学校でどのように学習し生活するのかという意味では、この分野の中でも事業7（放課後子ども教室推進事業）や事業8（青少年健全育成事業）が、大きく関わっているのではないかと考えています。我々、社会教育委員会として、少し俯瞰して、事業間の関わりをしっかりと考えていかなければいけないと考えます。

他自治体では、放課後のあり方も重要な関心事です。子どもたちの生活の中では学校の内も外も一体ですから、今日は冒頭で事務局から社会教育は学校以外の場という説明がありましたが、私としては、学校という場所であってもそれが教育課程以外であれば社会教育の分野として、学校を場とした子どもたちの社会教育を考えていく必要があると思いました。

他の分野でも1「共生」、2「子育て・健康」、6「情報・科学・歴史・文化財」など、学校と関わる事業があると思いますので、ぜひそのような視点を今後は踏み込んで議論したいと思いました。

○議長

ありがとうございます。間野委員、お願いします。

○間野委員

私もコミュニティ・スクールに関わっていますが、先ほど「子育て・健康」で学校を入り口として、という御意見があったと思います。コミュニティ・スクールというものは基本的に、地域の歩いて通える範囲に学校があり、その学校を中心として、地域の人たちも学校に通う子どもたちの学びを応援するという取組と思っています。

そのようにコミュニティ・スクールを考えたとき、社会教育的な視点がある

なと思います。子どもたちが学校で勉強することに加え、その学びをもっと深められるように地域の人たちが協力していく。その中で、地域の人たちと学校もつながる。地域の人同士も、今は自治会なども人数が少なくなったり、なくなったりする地域もあると聞きますが、コミュニティ・スクールを通じてつながりが再構築されていくところもあるのかなと思います。

コミュニティ・スクールという一見この事業だけのように見えますが、先ほど丹間委員がおっしゃったように、「地域・防災・環境」にある事業だけではなく「子育て・健康」などほかの分野・事業とも関わりが深い部分だと思います。個別の事業としてだけでなく、いろんなつながりや見え方があると思うので、もっと俯瞰して評価や議論ができる場として、社会教育委員会という場を活用できると良いのではないかと思います。

○議長

ありがとうございます。高根委員、お願いします。

○高根委員

コミュニティ・スクールのお話があったので、本校でも、コミュニティ・スクールを行っており、地域コーディネーターと言われる方もいらっしゃいます。なるべく学校にも地域の方に入ってもらい、いろいろと取り組んでいきたい、人材を発掘したいと試みています。学校で必要な人材について、どのような場面で地域の方に関わってもらいたいのか職員の意見を集めて、コーディネーターと一緒に話し合い、ではこういうところを手伝ってもらおうと、動き始めているところです。皆様のお話を聞いて、社会教育としていろいろとつながっていければ、もっと様々な方に学校に入っていただき、地域の力を借りながら教育活動ができるのかなと思いました。そのようなつながりもこれから検討できたらいいなと思いました。

○議長

ありがとうございます。金井委員、お願いします。

○金井委員

放課後子ども教室のコーディネーターとして来ておりますので、1つ意見を言わせていただきたいと思います。放課後子ども教室ですが、4月に各学校に開催希望をいただいて、コーディネーターが学校に伺うという形式ですが、毎月開催してくださる学校もあれば、年間を通して開催希望のない学校もあるのが事実です。

放課後の居場所づくりとして、コーディネーターがいろんな先生を探して、いろいろな学びや遊びの場を提供しているので、多くの学校でできたらいいなと私たちコーディネーターは思っています。担当課のこども育成課でも動いてくださっていますが、開催希望がない学校もあるので、別の課からも何かお声掛けいただけるなら、開催ゼロの学校を少しでも減らして放課後の居場所づくりをできたらと思っております。

○議長

ありがとうございます。櫻井委員、お願いします。

○櫻井委員

コミュニティ・スクールについて思ったことが1つあります。自分は竹園学園のコミュニティ・スクールも出ており、毎回かはわかりませんが竹園東中の生徒が参加していた回がありました。学校の話をしてくださって、自分も先生たちの説明だけだと実情と合っているかなと少し思ったりもしますが、本当はどうなのと聞ける生徒がいて、具体的な話してくれてすごく良かったです。なので、うちの学校でも学校評議委員会とき、委員と同数の生徒と一緒に入れて、好きに話していいよと伝えて参加してもらったのですが、委員の方からとてもよかったと言っていました。竹園東中の取組を真似させていただいたのですが、すごく良かったです。

○議長

ありがとうございます。丹間委員、お願いします。

○丹間委員

先ほど金井委員から御紹介いただいた中で、放課後子ども教室を学校の希望で開催するとのことでしたが、例えばコミュニティ・スクール、学校運営協議会に開催の希望があるかを尋ねていただくと、また違った状況になるのではないかと考えています。どのように子どもたちを育てていくか、どんな子どもに育って欲しいか、子どもたちの生活のあり方、学習のあり方、放課後のあり方を含めて密接に関わっていると思うので、ぜひそのようなことを今後コミュニティ・スクールで議論していただくことが大事なのかなと思いました。

○議長

ありがとうございます。分野7「地域・防災・環境」は非常に幅広いですが、本当に多くの委員の方々から御意見をいただきました。

特にコミュニティ・スクールについては、昨年度の社会教育委員会議で諮問を受け、答申を提出しました。それを受けてコミュニティ・スクールの浸透をどう図っていくかということを教育局としても取り組んでいただいています。が、まさに学校と地域の協働・連携がなければ上手くいかないということです。

子どもたちを地域がどう育てていくかということですが、つくば市は地域が広く多様ですから、コミュニティ・スクールがうまく推進している地域とそうでない地域がおそらくあるのではないかと。例えば、私の住んでいる地域でもコミュニティ・スクールが導入されています。今どんどん新しい住民が増えていますが、自治会に入らない方がほとんどです。しかし、そういった新たに来る方々は多くが小さいお子さんがいらっしゃる。だから、保育園、幼稚園、小学生とお子さんが成長していく過程で、コミュニティ・スクールは一緒に活動できる1つのツールではないかと思います。

地域でお互いを理解し合う、自治会も理解してもらう機会にもなるのではないかと考えています。子育て、子どもたちの教育を地域で連携して支えていく。協議会も、地域づくりの視点からもコミュニティ・スクールを見てもらうといいの

かなと思っています。

以上、7つの幅広い分野にまたがり、事業報告していただき、委員の方々から御意見をいただきました。

最後に私の方で全体をとおして、今までお話しいただいたように、つくば市は本当に幅広く活動を実施しています。つくば市の特徴として、科学のまちや、あるいは先ほどSDGsのお話もありましたように、様々な地域で先進的な活動をしているのですが、それがなかなかつくば市全域に浸透していないという状況ではないかと思っています。

そういう意味では、社会教育はそれらの活動を浸透させる大きなツールになっていくのではないかと。また、ツールとして見るだけでなく、社会教育に関わっていく中で市民一人一人がウェルビーイングを感じられるような事業が充実していくと良いと思っています。社会教育の力を使い、十分活かす取組がこれから必要だと思います。

それから、例えばまつりつくばがもうすぐ開催されますが、来年度からは温暖化の影響で時期を変えるということです。社会教育でも、室内の活動も多くありますが、屋外の活動もいろいろあります。これらの活動が気候変動の影響をかなり受けている。特にNPOの関係者がそのように感じています。野外活動などは、そのような状況を踏まえながらどのように活動していくのかということも大事ではないかなと思います。

また、私は環境が専門で、先ほど分野7の事業に筑波山自然環境教育事業がありましたが、つくば市として環境関係はもっといろいろ取り組んでいますので、そのようなところも社会教育の中にしっかり取り込んでいくことが大事ではないかと思っています。

事務局の方から何かございますか。

○事務局

先ほど丹間委員の方から「芸術・文化」の事業1・2の指標値について御質

問がありましたが、担当課に確認したところ、事業の全公演の定員数に対する参加人数の割合という回答がありましたので、補足させていただきます。

7 その他

○議長

事務局から何かございますか。

○事務局

事務局から、研修の御案内をさせていただきます。次回の茨城県社会教育委員研修会は12月11日（金）、12日（土）の予定です。詳細は県から通知があり次第、追って御案内いたします。

次回の会議につきまして、社会教育委員の役割として、「教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べること」が社会教育法に定められております。よってこのことから、教育委員会から諮問がありましたら会議を開催いたします。追って詳細を御連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

○議長

委員の方々から何か御意見、御質問ありませんか。

では、私から少し御提案をしたいのですが、私も社会教育委員はまだ2期目だという話をしました。市内で様々な社会教育の活動、これは従来の狭い意味の社会教育ではなく、今回ように他部局に跨るような様々な活動があります。私も仕事で外に出ており今までなかなかつくばにいないという状況でしたが、先ほど笠間のお話がありましたが、そういった市外の社会教育の優良事例も見たいと思いますし、それ以前につくば市内の社会教育の活動をぜひ時間のある限り拝見させていただきたいと思っております。

ぜひ私だけではなく皆さんからも、こういったところを視察したいということありましたら、事務局にお伝えいただき、一緒に視察に行けるよう積極的に進めていければと思っています。この会議は年3回程度ですから、なかなか委

員同士で、つくばの社会教育をどうしていくのか、社会教育だけではなくつくば市はどうしていけばいいんだろうか、子どもたちの教育をどうするのか、あるいは高齢者はどうするのか、そのような意見を視察という場面を通じて自由に交わせる機会を設けられればと思っております。

事務局には御面倒をかけますが、よろしくお願いいたします。では、進行を事務局にお返しいたします。

8 閉会

○事務局

阿部議長、円滑な進行ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、分野に対する俯瞰的な御意見や、事業と事業の関連に注目した御意見、社会教育に対する総合的な御意見をいただき、感謝申し上げます。

以上をもちまして、令和8年度第1回社会教育委員会議を閉会いたします。なお、本日の会議録は、事務局で作成の上、委員の皆様に御確認いただく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。

令和 8 年度第 1 回つくば市社会教育委員会議

次 第

日時 令和 8 年(2026 年) 8 月 10 日(月)
午後 2 時

場所 つくば市役所 2 階 会議室 203

- 1 開会
- 2 委嘱状交付式
- 3 教育長挨拶
- 4 委員及び職員紹介
- 5 議長及び副議長の選出
- 6 議事 社会教育事業 令和 7 年度実績報告・令和 8 年度事業計画について
- 7 その他
- 8 閉会

- 資料 1－1 社会教育事業 令和 7 年度実績報告・令和 8 年度事業計画
資料 1－2 つくば市社会教育推進体系
資料 2 つくば市社会教育委員条例
資料 3 つくば市社会教育委員会議運営規則
資料 4 つくば市社会教育委員名簿
資料 5 つくば市社会教育委員の手引
資料 6 つくば市教育大綱

社会教育推進体系に係る事業の進捗状況報告

(令和7年度実績報告・令和8年度事業計画)

1 はじめに

社会教育事業を分野ごとに体系化し、分野の方針に基づき事業が進捗しているか分野ごとの評価を行う。

2 各事業担当課の報告

事業8		障害者の生涯学習支援事業		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	①	令和7年度	目標値	80	%	② 指標評価
講座参加者の満足度			実績値	97		
		令和8年度	目標値	80		
③ 事業概要		第3次つくば市生涯学習推進基本計画の施策の柱である「誰一人取り残さない生涯学習」という観点から、文化芸術やスポーツなど、障害者へ多様な学びの機会を提供する。				⑤ 進捗状況 評価
④ 令和7年度 成果・課題		市内の障害者教育機関と協働し、卓球バレー体験講座を実施した。参加者の高い満足度を得ることができ、障害者の生涯学習の充実に寄与した。参加者が余暇活動を行う楽しさに気づき、講座参加をきっかけとしてサークル活動等の自発的な余暇活動へと発展させていくことが課題となる。				
⑥ 令和8年度 事業計画		引き続き生涯学習講座を開催する。障害者教育機関や専門家のアドバイスのサポートを受けながら講座のバリエーションを増やしていく。また、参加者に講座の当日運営等に参画してもらうことで、参加者の自発性や主体性の育成を図る。				

- ① 指標値:各事業の社会教育にかかる指標となる値。(次年度以降、同じ指標値を抜粋し統計を図る。)
- ② 指標評価:指標値の達成割合をもとに評価。

目標値に対する実績値の割合	指標評価
100%以上	5
80%以上 100%未満	4
60%以上 80%未満	3
40%以上 60%未満	2
40%未満	1
指標なし	—

- ③ 事業概要:各事業の取組の概要。
- ④ 令和 7 年度成果・課題:令和 7 年度の実績と、それによって得た社会教育に関する成果、課題。
- ⑤ 進捗状況評価:事業が計画的に進んでいるかを表す値。

目標値に対する実績値の割合	進捗状況評価
年度当初の計画を上回る進捗で事業を実施することができた。	5
年度当初の計画通りに事業を実施することができた。	4
やや遅れたが、今年度の事業計画は達成された。	3
計画から遅れている。(未達成)	2
計画から大幅に遅れている。(未達成)	1
進捗なし(隔年開催の事業など、当年の実施がない場合)	—

- ⑥ 令和 8 年度事業計画:令和 7 年度成果・課題を踏まえた令和 8 年度の事業の取り組み内容。

3 各分野の評価

事務局が分野全体の評価を記入する。

- ① 総合評価:分野内の指標評価・進捗状況評価を平均し、分野全体の達成状況について評価する。指標なしのものについては母数から除く。

全事業の平均値	総合評価
5	A+
4以上5未満	A
3以上4未満	B
2以上3未満	C
1以上2未満	D
1	E

- ② 評価の理由:総合評価に影響した点や、方針に寄与した成果、分野に共通する課題等を記載。

4 社会教育委員による意見

社会教育委員から、基本理念及び分野の方針を達成するため、社会教育事業全体もしくは各分野について包括的な意見をいただく。

5 各担当課へのフィードバック

会議内で発言のあった意見を事務局でまとめる。社会教育委員の確認後、各事業の担当課へフィードバックを行い、今後の事業の展開に反映する。

つくば市社会教育推進体系 事務事業一覧

「一人ひとりの成長と地域の創造」につながる
つくばの社会教育

基本理念	分野	方針	主な事務事業		担当課	事業番号	備考
	共生 (8)	多様な背景を持つ市民が、その能力を最大限に発揮し、生きがいを持って活躍できる地域社会を目指します。	男女共同参画推進事業	市長公室ダイバーシティ推進室	1		
			ダイバーシティ推進事業	市長公室ダイバーシティ推進室	2		
			多文化共生推進事業	市長公室国際都市推進課	3		
			人権擁護事業	市民部市民協働課	4		
			いきいきサロン事業	福祉部高齢福祉課	5		
			おひさまサンサン生き生きまつり事業(旧:おひさまサンサンフェスティバル事業)	福祉部高齢福祉課、障害者地域支援室	6		
			チャレンジアートフェスティバル事業	福祉部障害者地域支援室	7		
			障害者の生涯学習支援事業	教育局生涯学習推進課	8		
	子育て・健康 (7)	家庭の教育力や市民の健康意識を高めることにより、生涯にわたって心身の健康を保ち、豊かで幸せな人生を送れる地域社会を目指します。	家庭教育学級支援事業	教育局生涯学習推進課	1		
			生活習慣病予防教育事業	こども・保健部健康増進課	2		
			栄養改善事業	こども・保健部健康増進課	3		
			出前健康教室事業	こども・保健部健康増進施設いきいきプラザ	4		
			アクティブ運動教室事業(旧:運動推進事業)	こども・保健部健康増進施設いきいきプラザ	5		
			健康体操教室(65歳未満も含む)事業(旧:運動推進事業)	こども・保健部健康増進施設いきいきプラザ	6		
			いきいき・元気はつらつ運動教室	こども・保健部健康増進施設いきいきプラザ	7	個別事業	
	知識・教養 (8)	急速に変化する時代に対応できる知識・教養を習得することで、市民の自己表現と社会参画を推進し、豊かで活力ある地域社会を目指します。	つくば人間学講座	教育局生涯学習推進課	1		
			社会教育振興事業	教育局生涯学習推進課	2		
			市民研修センター管理運営事業(企画講座)	教育局生涯学習推進課	3		
			地域交流センター主催行事	市民部地域交流推進課	4		
			ふれあいプラザ指定管理者事業(企画講座)	市民部地域交流推進課	5		
			働く婦人の家自主企画事業	市民部働く婦人の家	6		
			市民活動支援事業	市民部つくば市民センター	7		
			産業振興センター運営事業(企画講座)	政策イノベーション部産業振興センター	8		
	芸術・文化 (10)	市民の文化的教養と創造性を育みながら地域文化の活性化を図り、社会参画を推進することで文化的で豊かな地域社会を目指します。	文化芸術が身近にある環境づくり	市民部芸術文化推進課	1		
			芸術文化公演事業	市民部芸術文化推進課	2		
			文化団体等育成支援事業	市民部芸術文化推進課	3		
			(公財)つくば文化振興財団支援事業	市民部芸術文化推進課	4		
			つくば市民文化祭開催事業	市民部芸術文化推進課	5		
			メディア芸術振興事業	市民部芸術文化推進課	6		
			読書推進支援事業	教育局中央図書館	7		
			高齢者文化芸術鑑賞助成事業	福祉部高齢福祉課	8		
			チャレンジアートフェスティバル事業(再掲)	福祉部障害者地域支援室	9	再掲	
			家庭教育学級支援事業(再掲)	教育局生涯学習推進課	10	再掲	
	スポーツ (8)	生涯スポーツの推進、コミュニティの形成、競技力向上をとおして、市民の心身の健全な成長と社会的結びつきを推進し、スポーツの価値と喜びを享受できる社会を目指します。	スポーツ教室等の開催	市民部スポーツ振興課	1		
			つくば市スポーツ協会等への支援	市民部スポーツ振興課	2		
			マラソン大会の開催	市民部スポーツ振興課	3		
			つくばスポーツフェスティバル&つくパラの開催	市民部スポーツ振興課	4		
			つくばウェルネスパーク管理事業(企画講座)	市民部スポーツ施設課	5		
			つくば市民・学校プール管理事業(企画講座)	市民部スポーツ施設課	6		
			サイクルパークつくば管理運営事業(企画講座)	都市計画部サイクルコミュニティ推進室	7		
			健康福祉祭いばらきねりんスポーツ大会	福祉部高齢福祉課	8		
	情報・科学・歴史・文化財 (10)	市民が情報リテラシーや科学的思考を身につけ、地域の歴史等について学ぶことで地域社会への理解を深め、市民主体の持続可能な社会を目指します。	つくばちびっ子博士事業	教育局生涯学習推進課	1		
			つくば科学フェスティバル事業	教育局生涯学習推進課	2		
			つくば科学出前レクチャー事業	教育局生涯学習推進課	3		
			次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業(旧:科学教育推進事業)	政策イノベーション部科学技術戦略課	4		
			筑波山地域ジオパーク推進事業	経済部ジオパーク室	5		
			読書推進支援事業(再掲)	教育局中央図書館	6	再掲	
			図書館ボランティア事業	教育局中央図書館	7		
			文化財催事講座等事業	教育局文化財課	8		
			文化財サポーター事業	教育局文化財課	9		
			民有文化財補助事業	教育局文化財課	10		
	地域・防災・環境 (17)	市民の地域交流や防災、環境問題への理解を深め、主体的に学び、行動する力を育み、安全・安心で持続可能な地域社会を目指します。	区会活動振興事業	市民部市民協働課	1		
			市民チャレンジへの支援	市民部市民協働課	2		
アイラブつくばまちづくり補助金事務			市民部市民協働課	3			
地域まちづくり支援事業			都市計画部都市計画課	4			
地域振興推進事業(旧:地域拠点活力共創マネジメント事業)			都市計画部周辺市街地振興課	5			
市民活動支援事業(再掲)			市民部つくば市民センター	6	再掲		
放課後子供教室推進事業			こども・保健部こども育成課	7			
青少年健全育成事業			教育局生涯学習推進課	8			
青少年育成団体支援事業			教育局生涯学習推進課	9			
二十歳の集い開催事業			教育局生涯学習推進課	10			
青少年体験学習事業			教育局生涯学習推進課	11			
社会力講座事業			教育局生涯学習推進課	12			
コミュニティ・スクール導入事業			教育局生涯学習推進課	13			
つくば未来塾事業			教育局生涯学習推進課	14			
防災講座等の実施			市長公室危機管理課	15	個別事業		
つくばSDGsパートナー講座			政策イノベーション部企画経営課	16			
筑波山自然環境教育事業			生活環境部生物多様性推進室	17			

分野	共生		
方針	多様な背景を持つ市民が、その能力を最大限に発揮し、生きがいを持って活躍できる地域社会を目指します。		
総合評価	A	評価の理由	本分野に係る事業全体は概ね良好に進捗している。 講座・講演会・イベント等の開催、表現活動により、多様な背景を持つ市民の自立と社会参加の促進し、生きがいを持って活躍できる地域社会の実現に寄与した。 また、おひさまサンサン生き生きまつりなど同じプログラムで異なる背景を持つ市民が協働することにより相互理解を促進した。 実績値が目標値に達しなかった事業もあるが、既存事業に一定の満足度が見込まれる。市民の多様化に合わせ、講座等の内容にバリエーションをもたせることが重要である。 高齢者及び障害者を対象とした事業では、講座・イベント等の安全管理と規模拡大の二つの相反する課題が存在し、事業参加者数等が停滞する傾向がある。このため、事業の運営方法を改めて検討する必要がある。 また、部局を跨いだ市全体で、各事業の目的達成に向けて更なる機運の醸成に努めていくことが重要である。
社会教育委員意見	(会議後、委員意見を記載)		

事業1		男女共同参画推進事業		担当課	市長公室ダイバーシティ推進室	
指標値	令和7年度	目標値	220	人	指標評価	5
男女共同参画セミナー参加人数		実績値	286			
	令和8年度	目標値	260			
事業概要	・男女共同参画に関する意識の向上を図り、個人をエンパワーメントするため、セミナーを開催する。 ・男女共同参画の推進について、広報紙、ホームページ等により、わかりやすい情報発信を行う。 ・審議会等における女性委員の積極的な登用を推進し、令和9年度に40%以上の達成を目指す。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	・女性の経済的自立やキャリア形成、ウェルビーイングの増進を目的とした連続セミナーを開催した。 ・市広報紙や「男女共同参画・ダイバーシティ推進NEWS」による啓発を行った。 ・審議会等における女性委員の割合40%以上を達成するため、女性委員登用状況調査を行い、女性委員を登用する意義を改めて周知徹底するとともに、女性比率向上のための対応例などを提示した。					
令和8年度 事業計画	・目的やターゲットを明確にしたセミナー（子ども向けのアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）に関するセミナー等を予定）を複数回実施し、性別にかかわらず誰もが個性と能力を発揮できるようエンパワーメントすることで、男女共同参画の推進を図る。 ・男女共同参画やダイバーシティの推進について、市広報紙、ホームページ等により、わかりやすい情報発信を引き続き実施する。 ・審議会等における女性委員の割合について、引き続き調査及び結果の公表を行うとともに、取組の背景や目的への理解が深まるよう通知方法を工夫する。また、各部署からの相談にきめ細かく対応し、女性委員の登用に向けた庁内のさらなる機運醸成に努める。					

事業2		ダイバーシティ推進事業		担当課	市長公室ダイバーシティ推進室	
指標値	令和7年度	目標値	55	人	指標評価	5
性的マイノリティに関するセミナー参加人数		実績値	112			
	令和8年度	目標値	58		進捗状況 評価	4
事業概要	・性の多様性に関する市民向けセミナーや情報発信を行う。 ・LGBTQ+に関する差別の解消に向けた施策を実施する。					
令和7年度 成果・課題	・令和7年12月に「令和7年度つくば市人権講演会LGBTQ+について考えてみませんか？」と題したセミナーのYouTube配信を実施した。（市民部市民協働課との共催事業） ・「性の多様性に関する職員ハンドブック」として、令和8年3月に「つくば市職員のためのインクルーシブな職場環境づくりガイドライン（性の多様性編）」を策定した。					
令和8年度 事業計画	・市民向けセミナーの実施に加え、6月のプライド月間に合わせた広報活動を行うなど、様々な媒体を通じて性の多様性に関する啓発を展開する。 ・庁内イントラネットでのガイドライン抜粋の掲載に加え、職員研修等における発信を通じて、本ガイドラインの浸透を図る。					

事業3		多文化共生推進事業		担当課	市長公室国際都市推進課	
指標値	令和7年度	目標値	60	回	指標評価	5
国際理解講座実施回数		実績値	77			
	令和8年度	目標値	77			
事業概要		・第2次つくば市グローバル化基本指針の推進 ・児童生徒の異文化理解を促進するために国際理解講座を実施 ・国籍を越えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 ・日本語学習支援や日本の文化・習慣等を体験するイベントの開催等を担う（一財）つくば市国際交流協会の支援			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		国際理解講座の実施：市内24か所で77講座を実施。 2,910人参加（内、市立小中学校での実施は、21校で70講座、2,724人参加） 国際交流協会主催事業：2,530人参加（大人向け日本語講座：250人、こども日本語勉強会：延べ1,249人、 小中学校就学・高校進学ガイダンス：50人、世界お茶のみ話：366人、ほか615人） 市内の外国につながりを持つこどもは増加し、国籍や文化的背景が多様化しており、日本語支援が必要な児童生徒が円滑に学校生活をスタートできる継続的な支援や、教育局との連携をより深める必要がある。				
令和8年度 事業計画		市内小中義務教育学校、児童館、児童クラブ等で国際理解講座を行う。 教育局と連携して、日本語支援が必要な児童生徒への支援を行う（一財）つくば市国際交流協会への支援を引き続き継続する。				

事業4		人権擁護事業		担当課	市民部市民協働課		
指標値		令和7年度	目標値	170	人	指標評価	3
人権啓発イベント参加者数			実績値	112			
		令和8年度	目標値	170			
事業概要		6月と12月に各2日間特設人権相談所を開設する。 年間を通じて、いじめや差別などの人権問題解消に向け啓発活動を実施する。 人権擁護委員が講師となり、小中学生を対象に人権教室を実施する。 人権啓発イベント（講演会等）を実施する。			進捗状況 評価	4	
令和7年度 成果・課題		（令和7年度つくば市人権講演会「LGBTQ+について考えてみませんか？」、ダイバーシティ推進室共催） オンライン開催であったため、20代から70代の申込があった。特定の世代に偏らず、幅広い世代に啓発できた。人権啓発イベント（講演会）は、時代のニーズにあった内容を引き続き検討していく。					
令和8年度 事業計画		6月と12月に各2日間特設人権相談所を開設する。 年間を通じて、いじめや差別などの人権問題解消に向け啓発活動を実施する。 人権擁護委員が講師となり、小中学生を対象に人権教室を実施する。 人権啓発イベント（講演会等）を実施する。					

事業5		いきいきサロン事業		担当課	福祉部高齢福祉課	
指標値	令和7年度	目標値	1,600	人	指標評価	5
通常サロン・出前サロン延べ利用者数		実績値	2,743			
		令和8年度	目標値	1,650		
事業概要	老人福祉センターなど市内4か所で高齢者が自由に参加できる通常サロンを開催する。また、10人以上のグループからの依頼により講師を派遣し、出前サロンを開催する。				進捗状況 評価	5
令和7年度 成果・課題	高齢者の自立と社会参加に寄与できた。（通常サロン実施回数223回、延べ利用者数2,100人。出前サロン実施回数47回、延べ利用者数643人。）講座の内容により参加人数にばらつきがある。また、男性の参加者数が低調である。					
令和8年度 事業計画	委託先である社会福祉協議会と連携し、参加者数を増やすための周知方法を検討していく。また、令和8年度から新しくメニューに加わる「eスポーツ」を活用し、参加者数増加を目指す。					

事業6	おひさまサンサン生き生きまつり事業（旧：おひさまサンサンフェスティバル事業）			担当課	福祉部高齢福祉課、障害者地域支援室	
指標値	令和7年度	目標値	1,500	人	指標評価	3
参加者数		実績値	922			
	令和8年度	目標値	1,500			
事業概要	高齢福祉課と障害者地域支援室と合同で実施。障害者や高齢者が協力してスポーツやレクリエーション活動を行うとともに、手作り品の展示、販売等を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	障害者と高齢者が同じプログラムに参加し交流することで、お互いに福祉への理解を図ることができた。令和7年度は屋内で開催し、天候に左右されず安全に配慮しながら実施することができた。屋内開催のため、安全に実施するために人数制限を設けざるを得ない状況であり、これ以上の参加者の拡大が見込めないという課題がある。運営方法を検討する必要がある。					
令和8年度 事業計画	引き続き実行委員会において、障害者（児）と高齢者、市民等が交流する活動を通して、社会参加と障害者（児）高齢者の相互理解促進に寄与することを目指し、事業の実施内容と安全に配慮した運営方法を検討していく。					

事業7		チャレンジアートフェスティバル事業		担当課	福祉部障害者地域支援室	
指標値	令和7年度 来場者数	目標値	3,350	人	指標評価	4
		実績値	3,262			
		令和8年度 目標値	3,350			
事業概要		障害者が制作した作品の展示と演劇等の舞台発表を通して、自立と社会参加を促進し、市民の障害者に対する理解と認識を深めることを目的とする。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		舞台発表の来場者数は804名。作品展への来館者数は2,458名。作品の制作やダンス・太鼓等の表現活動を通じて、障害者（児）の社会参加を促進するとともに、市民に向けて障害福祉に対する理解の促進を図ることができた。				
令和8年度 事業計画		委託先であるつくば市社会福祉協議会と連携し、来場者の増加及びより多くの団体が舞台への出演と作品展へ作品を出展できる取り組みを検討していく。 ＜主な年間計画＞ 7月～8月 巡回展（場所：茨城県庁） 11月 市民文化祭（場所：カピオ） 2月 巡回展（場所：つくば市役所） 3月 舞台発表・作品展				

事業8	障害者の生涯学習支援事業			担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度 講座参加者の満足度	目標値	80	%	指標評価	5
		実績値	97			
		令和8年度 目標値	80			
事業概要	第3次つくば市生涯学習推進基本計画の施策の柱である「誰一人取り残さない生涯学習」という観点から、文化芸術やスポーツなど、障害者へ多様な学びの機会を提供する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	市内の障害者教育機関と協働し、卓球バレー体験講座を実施した。参加者の高い満足度を得ることができ、障害者の生涯学習の充実に寄与した。参加者が余暇活動を行う楽しさに気付き、講座参加をきっかけとしてサークル活動等の自発的な余暇活動へと発展させていくことが課題となる。					
令和8年度 事業計画	引き続き生涯学習講座を開催する。障害者教育機関や専門家のアドバイス、サポートを受けながら講座のバリエーションを増やしていく。また、参加者に講座の当日運営等に参画してもらうことで、参加者の自発性や主体性の育成を図る。					

分野	子育て・健康		
方針	家庭の教育力や市民の健康意識を高めることにより、生涯にわたって心身の健康を保ち、豊かで幸せな人生を送れる地域社会を目指します。		
総合評価	B	評価の理由	市内全域で普及啓発活動や講座、教室を実施することで、市民により多くの学びの機会を提供し、方針に掲げる家庭の教育力や市民の健康意識を高めることができた。 また、講座や教室を通じて参加者同士の横のつながりを創出することで、悩みの共有や相互扶助につながるコミュニティの形成に寄与した。 さらに、講座を行う指導員・指導士を養成するなど、地域の人材育成に取り組んだ。 事業の進捗状況は概ね良好だが、一方で実績値が目標値に達しない事業が複数認められる。 本分野は、子育て・勤労世代を対象とする事業と、高齢者を対象とする事業の、主に二つに分けられる。子育て世代の保護者や勤労者に事業への関心を持たせ、参加意欲を喚起するには、対象に応じた講座内容の充実、効果的な周知方法の工夫、ならびに開催時間など運営面の改善が必要である。 また、健康に関する事業においてはリピーターが多い傾向が見受けられ、新規参加者の拡充が課題となる。
社会教育委員意見	(会議後、委員意見を記載)		

事業1	家庭教育学級支援事業			担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	4,500	人	指標評価	3
家庭教育学級参加者数		実績値	2,863			
	令和8年度	目標値	3,000			
事業概要	家庭教育学級の開催支援 社会教育指導員（会計年度任用職員）8人を生涯学習推進課に配置し、家庭教育学級の運営にあたり支援・助言を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	社会教育指導員のサポートの下、全ての公立幼稚園、小・中・義務教育学校において家庭教育学級を開催することができた。また、市内の企業へ出向き、働きながらも参加しやすいよう昼休み時間等を利用して家庭教育学級を実施し、働く保護者に学びの機会を提供した。 乳児家庭教育学級を市内4か所で各5回、春・秋・冬の3期で開催した。また、幼児家庭教育学級を市内3か所で各5回開催した。新たに祖父母のための家庭教育学級「まごのわ」を1回開催した。 参加者同士の横のつながりの形成を意識した講座形式を積極的に取り入れ、悩みの共有、連携強化を図り、家庭教育の振興に寄与した。 働く保護者が多い昨今の社会情勢を踏まえ、自主企画・自主運営を前提とした家庭教育学級にこだわらず、社会教育指導員を中心に柔軟に学級運営のサポートを行っていく必要がある。					
令和8年度 事業計画	社会教育指導員が、学級ごとの役員の実情に寄り添い、学級生の自主性を尊重しつつ、その成長をサポートする。市内の幼稚園、小・中・義務教育学校、企業、各地域において、より多くの保護者に家庭教育学級を通して学びの機会が提供できるようにする。					

事業2		生活習慣病予防教育事業		担当課	こども・保健部健康増進課	
指標値	令和7年度	目標値	43,000	人	指標評価	5
普及啓発活動		実績値	51,904			
	令和8年度	目標値	43,500			
事業概要	乳がん・骨粗しょう症・禁煙・歯周病予防等に関する正しい知識の普及啓発を行う。 基本健診受診者で医療機関への受診や生活習慣改善が必要な者に対し、受診勧奨、保健指導及び情報提供を行う。 健康手帳の交付を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	普及啓発活動では、対象者に合わせた効果的な周知啓発方法について検討していく必要がある。 生活習慣病予防教育・相談においては、指導内容の充実を図っているが、39歳以下の多くが就労しているため、平日の事業参加につなげられないことが課題である。					
令和8年度 事業計画	普及啓発活動では、広報やSNS等を活用し予防の重要性等について広く周知を行う。 生活習慣病予防教育・相談については、若い年齢層が参加しやすい教育相談事業について検討を行い、医療機関等関係機関との連携を図る。					

事業3		栄養改善事業		担当課	こども・保健部健康増進課	
指標値	令和7年度	目標値	260	回	指標評価	5
食生活改善推進員活動回数		実績値	281			
	令和8年度	目標値	265			
事業概要	食生活改善推進員の養成 地区組織活動の推進 食育普及活動 高齢者の低栄養予防				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	食生活改善推進員活動では、調理講習会や試食、レシピ配布など多様な方法で実施した結果、前年度より参加者を増やすことができた。食育普及事業「食育バランスランチ」では、提供食数を増やしたことで、より多くの市民に健康的な食事を伝え、食への関心を高めることにつながった。また、「ウエルカフェ栄養サロン」では、実施回数を増やすことで市民が参加しやすくなり、健康づくりを考える機会を作った。低栄養予防調理講習会では、参加者のリピーター率が高く、新規参加者の獲得が難しいため、より多くの市民への普及啓発が課題である。					
令和8年度 事業計画	食生活改善推進員活動及び食育普及事業については、引き続き関係部署との調整を進めるとともに、市民に幅広く普及啓発できるような活動を推進する。また、低栄養予防調理講習会については、参加方法を先着順から抽選制に変更することで、より多くの方に参加の機会を広げ、新規参加者の獲得を目指す。					

事業4		出前健康教室事業		担当課	こども・保健部健康増進施設いきいきプラザ	
指標値	令和7年度	目標値	34,500	人	指標評価	2
教室参加延人数		実績値	19,919			
	令和8年度	目標値	34,500			
事業概要	65歳以上で構成される5名以上の団体に対し、地区集会所や研修センター等に出向き、体操や健康講話を実施する。なお、当出前健康教室事業には、実施や運営の方法が異なるシルバーリハビリ出前体操教室と健康体操教室の2種類の教室がある。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	健康体操教室（65歳以上）：区会回覧や各事業でのチラシ配布等を実施し、参加者延人数は増加した。また、新規で3団体の申込みがあった。 シルバーリハビリ出前体操教室：希望団体に指導士を派遣し運動指導を行い、高齢者の健康づくりの機会を提供できた。 3級シルバーリハビリ体操指導士14名を養成し担い手を増やすことができた。 教室参加者に健康講話の実施や、3級シルバーリハビリ体操指導士養成講座を行うことにより、健康に関する学びの機会を提供し、社会教育の振興を図ることができた。					
令和8年度 事業計画	今後も継続して教室参加者に健康講話の実施や、3級シルバーリハビリ体操指導士養成講座を行うことにより、健康に関する学びの機会を提供していく。					

事業5		アクティブ運動教室事業（旧：運動推進事業）		担当課	こども・保健部健康増進施設いきいきプラザ	
指標値	令和7年度	目標値	1,700	人	指標評価	3
教室参加延人数		実績値	1,314			
	令和8年度	目標値	1,700			
事業概要		40～64歳までの中高齢者を対象としたアクティブ運動教室を実施する。健康運動指導士による運動（年42回）と体力測定（年1回）を行う。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		区会回覧や各事業でのチラシ配布等の周知活動を実施し、新規参加者の申込みにつながり、参加実人数・延人数ともに増加した。 各クラスに対して年4回健康講話や、季節に応じた健康に関する掲示を行うことにより、健康に関する学びの機会を提供し、社会教育の振興を図ることができた。				
令和8年度 事業計画		教室参加者に健康講話や季節に応じた健康に関する掲示を行うことにより、健康に関する学びの機会を提供していく。				

事業6	健康体操教室（65歳未満も含む）事業（旧：運動推進事業）			担当課	こども・保健部健康増進施設いきいきプラザ	
指標値	令和7年度	目標値	5,300	人	指標評価	2
教室参加延人数		実績値	2,172			
	令和8年度	目標値	5,300		進捗状況 評価	4
事業概要	65歳未満のつくば市民等を含む、毎回5人以上が参加できる団体に対し、地区集会所や研修センター等に出向き、体操や講話を実施する健康体操教室。なお、健康体操教室には、本事業と、参加者の年齢が65歳以上の者を対象とする「401 出前健康教室事業」で実施している教室の、二つの健康体操教室がある。					
令和7年度 成果・課題	利用申し込みがあった団体に対し、利用回数に上限はあるものの、団体が希望する回数及びメニューによる運動の機会を提供するとともに、運動に併せて専門職による健康講話を実施することによる啓発や意識付けを行うことにより、市民の健康寿命の延伸につながった。 教室参加者に健康講話を行うことにより、健康に関する学びの機会を提供し、社会教育の振興を図ることができた。					
令和8年度 事業計画	今後も継続して教室参加者に健康講話の実施を行うことにより、健康に関する学びの機会を提供していく。					

事業7		いきいき・元気はつらつ運動教室		担当課	こども・保健部健康増進施設いきいきプラザ	
指標値	令和7年度	目標値	4,000	人	指標評価	4
教室参加延人数		実績値	3,360			
	令和8年度	目標値	4,000			
事業概要		介護予防を目的とした対象年齢65歳以上の運動教室であり、いきいき運動教室（65～74歳）と元気はつらつ運動教室（75歳以上）がある。健康運動指導士等による運動（年42回）と体力測定（年1回）を行う。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		区会回覧や各事業にてチラシ配布等の周知を行ったことで、新規申込みにつながった。年4回の健康講話や季節に応じた健康に関する掲示による啓発を行い、運動だけではなく参加者の健康管理にもつながった。また、元気はつらつ運動教室では、フレイル質問票結果から参加者の状態を把握・分析し、その結果を踏まえ、参加者により必要性が高いと思われる内容の講話を行った。 各コースに対して年4回健康講話や、季節に応じた健康に関する掲示を行うことにより、健康に関する学びの機会を提供し、社会教育の振興を図ることができた。				
令和8年度 事業計画		教室参加者に健康講話や季節に応じた健康に関する掲示を行うことにより、健康に関する学びの機会を提供していく。				

分野	知識・教養		
方針	急速に変化する時代に対応できる知識・教養を習得することで、市民の自己実現と社会参画を推進し、豊かで活力ある地域社会を目指します。		
総合評価	B	評価の理由	講座等については、休日や夜間にも開催することにより、新規参加の機会を増やすと同時に、人気の講座に偏ることなく多様なテーマの講座を企画・実施することで、市民の参加意欲や満足度の向上を図った。 また、市民主体の実行委員会が企画する講座の開催、関連機関や研究者との連携による事業、さらには民間団体やボランティアと協力した施設の運営など、地域人材を活用した事業を展開することで、社会参画の推進と地域社会の活性を図っている。 引き続きニーズ調査を行い講座等の魅力を高めながら、参加者の増加を図るとともに、参加者のみならず、地域住民を巻き込んだ社会教育を展開することにより、継続的な地域社会の発展に取り組む必要がある。
社会教育委員意見	(会議後、委員意見を記載)		

事業1	つくば人間学講座			担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	330	人	指標評価	5
講座参加者数		実績値	775			
	令和8年度	目標値	200			
事業概要	市民主体の実行委員会で講座の内容・講師選定などの企画全般を行い、市と協働で講座を開催する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	企画から実施まで、市民（実行委員会）が主体となり、市と協働で市民のニーズや時代を反映したテーマの講座を2回開催した。若年層から中高年層まで幅広い参加者に学びの場を提供し、市民の知的好奇心を満たし、より豊かで充実した社会の実現に寄与した。 当事業は30周年を迎え、市民一人ひとりの「心の豊かさ」や「地域への愛着」を育みながら、つくばの市民文化の基盤形成に大きく寄与した。					
令和8年度 事業計画	令和8年度は4回の講座を実施し講座内容にバリエーションを増やすことで、多様な市民に学びの機会を提供する。					

事業2		社会教育振興事業		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	300	人	指標評価	1
社会教育講演会参加者数		実績値	112			
	令和8年度	目標値	300			
事業概要	社会教育委員会議を開催し、市の社会教育施策に対して意見等をいただき、事業実施に反映させる。 社会教育主事を配置し、社会教育行政の充実を図る。 社会教育講座等の開催、社会教育関連施設の適正な管理を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	社会教育委員会議を3回開催し、社会教育委員の意見を社会教育行政に反映させ、より効果的で実践的な社会教育行政の実現に寄与した。 昨年度に引き続き社会教育主事を2名配置し、事業推進体制を整えた。 市民ニーズに応える学習機会として社会教育講演会を開催し、市民の知識・理解の向上を図った。					
令和8年度 事業計画	引き続き、社会教育委員の求めに応じ、社会教育の振興を図るため必要な時に適切に会議を運営する。 社会教育講演会について、400人規模の会場を確保しより多くの参加希望者に学びの機会を提供する。					

事業3		市民研修センター管理運営事業（企画講座）		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	27,250	人	指標評価	5
施設利用人数		実績値	28,219			
	令和8年度	目標値	25,700			
事業概要		利用者が快適に施設を利用できるよう、指定管理者制度を活用し、適切な施設の維持管理、施設の特性を生かした自主事業の実施など、民間活力を用いた施設運営を行う。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		指定事業・自主事業として講座を開催し、広く市民の生涯学習の振興に寄与した。今後も一定のニーズが見込まれる。 また、地域の方が施設の花の植替え等を積極的に行うなど地域住民と良好な関係を築き、地域の活性化に寄与することができた。 当施設は高齢者の社会参加促進や健康増進といった福祉的側面を担っているため、施設利用料金が免除になる者の利用が多く、全体の利用者増を図ることが課題である。				
令和8年度 事業計画		施設周辺の観光に訪れた方に対する周知を工夫し、有料利用者にも広く利用してもらうことで、施設利用者の増加につなげる。 6～7月は空調及びボイラー改修工事の影響で全館休業が必要なことから、講座を一部縮小して開催する。現在の内容に一定のニーズがみられることから、講座の種類に大幅な影響がないよう、工事期間外で調整を行う。				

事業4	地域交流センター主催行事			担当課	市民部地域交流推進課	
指標値	令和7年度	目標値	3,500	人	指標評価	4
講座延受講者数		実績値	2,901			
	令和8年度	目標値	3,500			
事業概要	各地域交流センターにおいて、市民ニーズに応じた講座等を企画・実施する。地域交流の拠点となる「たまり場」としての機能を充実させ、親子サークルや地域団体の活動を支援する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	幅広い年代の市民が参加しやすいよう、土日や夜間開催の講座を拡充し、市民ニーズに幅広く応える内容を提供した。全講座数と受講者数：111講座（延べ241回）2,901人、うち夜間：4講座（延べ9回）98人、土日祝日：14講座（延べ23回）232人。課題としては、料理や軽運動など人気の高い講座に偏ることなく、様々なジャンルの講座等を企画・実施する。また、市の謝礼基準で講師を引き受けてくれる人材が少なくなっており、謝礼基準の改定が必要である。					
令和8年度 事業計画	◆令和8年度前期講座（予定） ・実施箇所数：16地域交流センター ・実施講座数：49講座　うち平日昼間講座数：37講座　平日夜間講座数：3講座　休日講座数：9講座 ・募集定員：計219人 ・主な講座内容：ヨガ、ストレッチ、健康、ダンス、ウォーキング、フラワーアレンジメント、料理、飲料、生活、手芸、クラフト、アクセサリー、園芸等 ・周知方法：広報つくば5月号及び市ホームページ ◆令和8年度後期講座：未定（前期講座に準じて実施予定）					

事業5	ふれあいプラザ指定管理者事業（企画講座）			担当課	市民部地域交流推進課	
指標値	令和7年度	目標値	75,000	人	指標評価	3
ふれあいプラザにおける各施設の利用者数		実績値	47,645			
		令和8年度	目標値	75,000		
事業概要	利用者が快適に施設を利用できるよう、施設の運営を指定管理者に委託し、適切な維持管理、施設の特性を生かした自主事業の実施など、民間活力を用いた施設運営を行う。				進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題	老朽化に伴う施設・設備の不具合について修繕を行った（修繕工事12件、設計委託1件）。成果指標である施設利用者数は目標達成できなかったため、引き続き講座受講を契機としたサークル活動への参加促進に繋げるなど、利用者数の増加に取り組むよう、ふれあいプラザに対し継続的な助言を行う。また課題としては、開館後20年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいるため、今後は大規模改修等も視野に入れ、施設の安全性と利便性を最優先に、計画的に改修等を進める必要がある。					
令和8年度事業計画	◆令和8年度事業計画（予定） （1）ふれあいプラザ講座 英会話、水泳、絵画、手芸、ボディバランス、料理等の多彩なジャンルの講座を、年間を通して企画・開催する。周知方法は、毎月の広報つくばに講座募集記事を掲載する。 （2）各種イベント ゴールデンウィーク子どもイベント、子どもプールフェス、納涼肝試し、秋麗のJazz Live 2025、ハロウィンイベント、クリスマスイベント、年忘れ演芸寄席、合同発表会 ほか （3）施設維持管理 8市単ふれあいプラザプール空調チラー外改修工事 40,733千円（予算額） 8市単ふれあいプラザエレベーター修繕工事 4,995千円（予算額）					

事業6	働く婦人の家自主企画事業			担当課	市民部働く婦人の家	
指標値	令和7年度	目標値	800	人	指標評価	3
講座受講者数		実績値	512			
		令和8年度	目標値	800		
事業概要	市民への学習機会の提供のため、市民ニーズに応じた講座等を企画する。				進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題	・ 勤労者向けに、魅力ある講座を企画し、休日や夜間など参加しやすい日程に設定した。 ・ 生涯学習の一環として趣味や運動を通じ交流する機会を提供できた。 ・ 幅広く周知するため、広報紙、HPへの掲載のほか地域交流センターへチラシの配布したことで、市内全域から定員を超える応募があった。					
令和8年度事業計画	29講座（各1～6回）全50回 働く婦人の家運営委員会からの意見を取り入れ、勤労者が参加しやすい休日や夜間等を中心の日程で計画した。					

事業7	市民活動支援事業			担当課	市民部つくば市民センター	
指標値	令和7年度	目標値	11	回	指標評価	5
生涯学習講座の開催回数		実績値	12			
	令和8年度	目標値	11			
事業概要	生涯学習の推進を目的に、市民を対象として様々なテーマの学習機会を提供し、学びを通じた自己啓発と地域コミュニティの形成を推進する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	年12回の生涯学習講座を実施し、参加しやすい開催日時の工夫と多様なテーマの学習機会の提供により、市民の学びを支援した。引き続き幅広い層の市民の参加を促進するため、市民ニーズの把握を深め、より魅力的で多様な講座内容の企画に取り組む必要がある。					
令和8年度 事業計画	市民ニーズを把握し、年11回の講座を通じて多様な学習機会を提供することで、市民の学びの充実と地域コミュニティの形成を推進する。					

事業8		産業振興センター運営事業（企画講座）		担当課	政策イノベーション部産業振興センター	
指標値	令和7年度	目標値	7,000	人	指標評価	5
産業振興センターの利用者数		実績値	9,121			
	令和8年度	目標値	7,000		進捗状況 評価	4
事業概要	起業の各ステージで必要となる情報の提供や相談に幅広く対応することで、スタートアップへの一貫した支援を行う。 ・起業・経営に関する専門的な情報提供・相談対応 ・起業・経営に関する意欲醸成のためのイベント・セミナーの実施 ・コワーキングスペース、事業支援室の管理運営					
令和7年度 成果・課題	筑波大学起業家育成講座との連動や研究者交流イベントの開催等を通じて、施設の認知度や関心の向上を図った。 ・コワーキングスペース利用状況（3月末時点）：定期指定25/27席、定期自由48/48席、ドロップイン38者 ・イベント：78回（ほぼすべて現地とオンラインのハイブリット）、参加者延べ3,536人 ・視察・内覧：41人					
令和8年度 事業計画	引き続き各種サービスの提供を通じたスタートアップ支援を行うとともに、大学・研究機関等と連携し学生や研究者の施設利用促進を図る。 また、小中高生向けのアントレプレナーシップイベント等を開催し、あらゆる年代の人が新しいことにチャレンジすることやそれを支援するマインドの醸成を図る。					

分野	芸術・文化		
方針	市民の文化的教養と創造性を育みながら地域文化の活性化を図り、社会参画を推進することで文化的で豊かな地域社会を目指します。		
総合評価	B	評価の理由	各事業の目的は主に、幅広い市民に対しての芸術文化活動に接する機会の提供と、アーティストや活動団体に対しての支援という二点に分けられる。 市民への機会提供においては、子どもや子育て世代を対象とした講座等により、幼少期からの触れ合いを促進し、芸術・文化に親しむきっかけを育むことができた。 アーティスト等の支援においては、「つくばアートスタジオたみやま」の活動拠点の整備や、文化施設等との連携により、継続的かつ主体的な文化・芸術活動を促進し、社会参画を推進することができた。 また、体験型ワークショップや、文化施設以外におけるアウトリーチ活動や若手アーティストの実地研修により、アーティストの活動の幅を広げ、市民の豊かな芸術文化の醸成に寄与した。 一部の事業において、講座の開催数や参加者数が目標値に達していない事例が見受けられるものの、一定の参加者数を維持している。今後は、事業全体の満足度や制度の利便性を向上させることが課題である。 各事業においてアンケート結果などからフィードバックを収集し、継続的な改善を図ることが重要である。
社会教育委員意見			

事業1		文化芸術が身近にある環境づくり		担当課	市民部芸術文化推進課	
指標値	令和7年度	目標値	90	%	指標評価	5
参加率		実績値	90			
	令和8年度	目標値	90			
事業概要		体験から実践へと結びつく企画として、アートラボ）体験型ワークショップ）を開催する。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		4回のアートラボ（体験型ワークショップ）を開催し、市民に体験の場を提供するとともに、アーティスト等に実践的な活動の場を提供した。 今後も協働アーティストや開催場所の確保策の検討を続けるとともに、令和8年度にオープン予定の「つくばアートスタジオたみやま」の活用も検討していく。				
令和8年度 事業計画		令和8年度も3回程度、様々なジャンルのワークショップを計画している。 また、アートコーディネーターを中心に「つくばアートスタジオたみやま」での市民参加型事業を具体化していく。				

事業2	芸術文化公演事業				担当課	市民部芸術文化推進課	
指標値	令和7年度	目標値	80	%	指標評価	4	
芸術文化公演事業入場率		実績値	67				
	令和8年度	目標値	80		進捗状況 評価	4	
事業概要	つくば文化振興財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術事業を実施する。芸術性の高い公演に触れてもらうため、国内有数の音響効果を持つノバホールを会場として、良質なプログラムを厳選して開催する。また、市内で活動するアーティストや文化芸術団体へ、出演機会の提供などの支援を行う。						
令和7年度成果・課題	ノバホール・つくばカピオを主な会場として、幅広いジャンルの作品を提供した。また、市内小中学校へのアウトリーチ事業や若手アーティストの実地研修協力などの体験・育成事業を多く実施した。限られた予算の中で満足度の高い企画を実施していくために、企画内容や実施方法などを、つくば市文化振興財団と協議する必要がある。						
令和8年度事業計画	鑑賞事業や参加型事業など、17事業を実施予定。未就学児向けや筑波大学との共同事業など、多様な客層に向けた事業の展開を計画している。						

事業3		文化団体等育成支援事業		担当課	市民部芸術文化推進課	
指標値	令和7年度	目標値	60	団体	指標評価	4
加盟団体数		実績値	55			
	令和8年度	目標値	60			
事業概要	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	文化協会に所属する団体間の交流が活発に行われたほか、文化協会主催事業の実施や広報誌の発行によって市民との交流も促され、文化活動の活性化につながった。 また、令和8年度から「つくば市芸術文化事業会場費補助金要項」を新たに策定し、所属団体に関わらず市内で開催される芸術文化事業の会場使用料に対し補助金を交付することとした。					
令和8年度 事業計画	(文化協会)文化協会役員との意見交換や協議を積極的に行い、必要に応じて情報提供や助言を行う。 (会場費補助金)令和8年度は上半期・下半期の2回に分けて募集を行う。 (1回目の募集は令和8年4月に行い、3件の申請を受け付けた。)					

事業4		(公財)つくば文化振興財団支援事業		担当課	市民部芸術文化推進課	
指標値	令和7年度	目標値	—	(単位)	指標評価	—
—		実績値	—			
	令和8年度	目標値	—			
事業概要	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	公益財団法人であることから、収益事業などに様々な制限がある中で財団の運営は行われているが、財団の自助努力で創意工夫のもとに事業運営が図られた。 今後も財団の経営状況について、課題を精査し、経営改善を図る必要がある。					
令和8年度 事業計画	文化芸術事業や指定管理事業など、収支に関わる部分の見直しを行う。					

事業5		つくば市民文化祭開催事業		担当課	市民部芸術文化推進課	
指標値	令和7年度	目標値	25,000	人	指標評価	4
来場者数		実績値	22,525			
	令和8年度	目標値	25,000			
事業概要		市内各地区の地域交流センター・体育館・市民ホール等を会場とした参加団体及び個人の作品展示やステージ発表のほか、音楽会、小中学校芸術展などを実施する。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		施設の修繕により会場に制約があったものの、例年同様の参加団体数を確保するなど、主体的な文化芸術活動を促進することができた。令和8年度の実施に向け、事後アンケートの結果などに基づき、改善点を洗い出す必要がある。				
令和8年度 事業計画		令和8年（2026年）11月7・8日（ノバホール音楽会は11月14・15日、コリドイオ軽音ライブは11月15日）に実施する。実行委員会や各会場の催事委員会において防犯対策の検討など、課題に対する対応策を検討する。				

事業6		メディア芸術振興事業		担当課	市民部芸術文化推進課	
指標値	令和7年度	目標値	120	人	指標評価	5
ショートムービーコンペティション（上映会）入場者数		実績値	135			
	令和8年度	目標値	130			
事業概要		市内大学、研究機関等と連携し2事業を実施する。 ・つくばメディアアートフェスティバル メディア芸術作品を市民に周知するためのイベント（隔年）開催を開催する。 ・つくばショートムービーコンペティション 10分以内の映像作品を募集し、コンペティションを実施する。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		メディアアートフェスティバル2025やつくば ショートムービーコンペティション2026を実施 し、メディア芸術を広めることができた。一方 で、事業の周知方法を再検討し、来場者数の増加 に努める必要がある。				
令和8年度 事業計画		メディアアートフェスティバルは隔年開催のため、令和8年度は「つくば ショートムービーコンペティション」のみの実施となる。令和9年3月の開催 に向け、作品募集や上映会開催の準備を実行委員会を中心に進めていく。また、 令和9年度のメディアアートフェスティバルに向け、参加アーティスト や研究機関等との調整を今年度から実施する。				

事業7		読書推進支援事業		担当課	教育局中央図書館	
指標値	令和7年度	目標値	160	回	指標評価	3
ボランティア等によるおはなし会等開催回数		実績値	115			
	令和8年度	目標値	160			
事業概要		・学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、出前講座、ファーストブック講座、ライブラリーピクニックなど各種イベントの実施 ・ジュニア図書館員、社会科見学、職場体験学習、職場見学学習の受入れ ・司書教諭及び学校司書の研修協力などの学校図書館支援 ・図書館情報誌「ヨモツカ」、「こどもヨモツカ」の発行 ・利用者の調査研究に対する質問に応じ、必要とされる資料を検索、提供、回答する ・電子図書館サービスの提供			進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題		おはなし会の回数は目標値には到達しなかったものの、開催場所の見直し、内容の充実を図った。 各種イベントを実施することにより、読書推進及び図書館の利用促進を図ることができた。 電子図書館、レファレンス、相互貸借、文献複写等のサービスを提供し、利用者の調査研究を支援することができた。 参加者からの意見などからニーズを分析し、イベントの開催時期、内容、対象者の見直しを検討する必要がある。				
令和8年度事業計画		内容等を見直しながら引き続きイベントを開催し、人や本がふれあう交流拠点として気軽に自由な図書館利用を促進し、読書に親しむきっかけを提供する。また、利用者の調査研究を支援し、更なる読書推進の取り組みを行う。				

事業8		高齢者文化芸術鑑賞助成事業		担当課	福祉部高齢福祉課	
指標値	令和7年度	目標値	1,700	人	指標評価	3
高齢者文化芸術鑑賞助成事業利用者数		実績値	1,127			
		令和8年度	目標値	1,800		
事業概要	高齢者の健康の保持増進、社会参加の促進及び生きがいづくりの推進を図るため、市内在住の70歳以上の高齢者に対し、文化芸術振興事業のチケット料金の一部を助成する。				進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題	令和7年度から「シニア割パスカード」を交付し、助成する方式とした。令和8年3月31日時点で1,659枚交付した。 購入時の来館が不要とし、原則全ての予約方法・支払方法が選択可能となり、利用者の利便性向上につながった。 当日、シニア割パスカードや身分証明書を忘れると、割引が適用とならないケースがあるため、適切に周知する。					
令和8年度事業計画	利用者を増やすために、つくば文化振興財団と協力連携し、対象者への周知・広報活動をしていく。					

事業9		チャレンジアートフェスティバル事業(再掲)		担当課	福祉部障害者地域支援室	
指標値	令和7年度	目標値	3,350	人	指標評価	4
来場者数		実績値	3,262			
	令和8年度	目標値	3,350			
事業概要		障害者が制作した作品の展示と演劇等の舞台発表を通して、自立と社会参加を促進し、市民の障害者に対する理解と認識を深めることを目的とする。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		舞台発表の来場者数は804名。作品展への来館者数は2,458名。作品の制作やダンス・太鼓等の表現活動を通じて、障害者（児）の社会参加を促進するとともに、市民に向けて障害福祉に対する理解の促進を図ることができた。				
令和8年度 事業計画		委託先であるつくば市社会福祉協議会と連携し、来場者の増加及びより多くの団体が舞台への出演と作品展へ作品を出展できる取り組みを検討していく。 ＜主な年間計画＞ 7月～8月 巡回展（場所：茨城県庁） 11月 市民文化祭（場所：カピオ） 2月 巡回展（場所：つくば市役所） 3月 舞台発表・作品展				

事業10		家庭教育学級支援事業(再掲)		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	4,500	人	指標評価	3
家庭教育学級参加者数		実績値	2,863			
	令和8年度	目標値	3,000			
事業概要		家庭教育学級の開催支援 社会教育指導員（会計年度任用職員）8人を生涯学習推進課に配置し、家庭教育学級の運営にあたり支援・助言を行う。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		家庭教育学級において、芸術及び伝統文化に関する講座を開催した。学級生や児童がともに伝統的なあそびや多様な文化について学ぶ機会を提供し、家庭内の身近な文化・芸術表現の土壌を育んだ。 【関連講座】 幼稚園：わらべうた、消防音楽隊による音楽祭、工作教室、積み木教室 小学校：保護者による国際交流会、自然あそび体験 祖父母学級：昔遊び交流会 等				
令和8年度 事業計画		学級生の自主性を尊重しつつ、学びの5つの柱の1つである「つくばを再発見して育む感性」に沿い文化的教養を学ぶ機会を提供できるよう、社会教育指導員がサポートを行う。				

分野	スポーツ		
方針	生涯スポーツの推進、コミュニティの形成、競技力向上をととして、市民の心身の健全な成長と社会的結びつきを推進し、スポーツの価値と喜びを享受できる社会を目指します。		
総合評価	A	評価の理由	方針における生涯スポーツの推進、コミュニティ形成、競技力向上の三つの視点から、分野内の事業はおおむね良好に進捗している。 生涯スポーツの推進面では、スポーツを始めるきっかけづくりとなる体験講座や、各種スポーツ講座・大会を市、指定管理者、補助団体等において計画どおり実施した。また、民間団体主催のスポーツ教室の開催支援も行った。 コミュニティ形成面では、民間企業や各種スポーツ団体が一堂に会し、パラスポーツを含む各種スポーツの体験講座を開催するなど、障害者スポーツへの理解に寄与し、「つながり」の創出や、多様な交流を推進した。 競技力向上面では、市主催事業や補助団体、指定管理者施設等で実施する教室や大会等を通じて、競技力の向上を図った。 大会等におけるボランティアの参加や、地域住民からの応援の充実など、競技に参加しない市民も大会に関わる機会を創出することで、スポーツでつながるまちづくり・仲間づくりを一層意識し事業を実施することが課題である。 引き続き、施設認知度の向上による利用者の増加に取り組み、講座で学んだことを日常的なスポーツ活動につなげることが課題となる。
社会教育委員意見			

事業1		スポーツ教室等の開催		担当課	市民部スポーツ振興課	
指標値	令和7年度	目標値	16	日	指標評価	5
延べ開催日数		実績値	20			
	令和8年度	目標値	19			
事業概要	スポーツ教室等を開催することにより、市民のスポーツ振興の啓発、習慣の定着、市民同士が交流できる環境の提供及び市民の健康づくりを図る。また、市内小中学校を対象とした「障害者スポーツ体験出前教室」を開催することで、児童・生徒における障害者スポーツへの理解と認知度を深める。さらに、民間団体等におけるスポーツの機運を高めるため、民間団体等が実施する教室等に対し広報活動や会場提供といった協力をする。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	スポーツを始めるきっかけとなる体験教室など、充実した教室を開催することができた。 また、市が主催するスポーツ教室のほか、民間事業者等が主催する教室に関して広報や会場確保といった協力による開催支援を行った。 民間や庁内他部署が行う健康増進や地域住民の交流促進のための教室と差別化を図りながら、継続したスポーツ活動につながるような教室を企画運営していく必要がある。					
令和8年度 事業計画	令和7年度新規事業の「障害者スポーツ体験出前教室」について、その名称を「パラスポーツ体験出前教室」へと改めるなど、一定の見直しを図りながら各種スポーツ教室等を開催していくとともに、民間団体等が実施する教室等も積極的に支援していく。					

事業2	つくば市スポーツ協会等への支援			担当課	市民部スポーツ振興課	
指標値	令和7年度	目標値	7,300	人	指標評価	4
スポーツ協会の 会員数		実績値	7,259			
	令和8年度	目標値	7,550			
事業概要	(一社)つくば市スポーツ協会及びつくば市レクリエーション協会に補助金を交付するなどし、その活動を支援する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	補助金や会費等の自主財源によって、つくば市スポーツ協会主催大会等のみならず、専門部会、スポーツ少年団等による各種大会やこれまで市が実施していたスポーツ教室の一部を自主事業として開催できた。 また、市職員を事務局長としてつくば市スポーツ協会へ派遣し事務処理のスキルアップを図るとともに、部活動の地域展開に係る検討について同協会と連携を取りながら進めた。					
令和8年度 事業計画	活動の原資となる補助金の交付を継続し、法人としての適正な事務執行及び経理処理が行えるよう引き続き支援するとともに、事業等の拡大に伴った事業費・人件費の増大や部活動の地域展開の方向性に応じ、適切な連携・補助を検討していく。					

事業3	マラソン大会の開催			担当課	市民部スポーツ振興課	
指標値	令和7年度	目標値	10,636	人	指標評価	4
つくばマラソン出走者数		実績値	9,331			
	令和8年度	目標値	11,530			
事業概要	マラソン大会を開催することにより、スポーツの楽しみや健康の増進、さらには技術の向上並びに参加者の交流の場を提供する。また、集客力のある大規模なイベントを開催することで、市のPRやスポーツでつながるまちづくりに寄与する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	スポーツの楽しみや健康の増進等の場を提供することができた。つくばマラソンにおいては47都道府県から参加者が集まり、市のPRに寄与することができた。 コース変更後、初の開催となった昨年度の大会の結果を踏まえ、メイン会場のレイアウトや交通規制の手法等を改善していく必要がある。					
令和8年度 事業計画	主催者のほか、警察・消防・医療機関等の関係各所と協議を行い、昨年度生じた課題を解決できるよう準備を進めていく。 また、ボランティアや沿道の応援の充実など、マラソンに出走しない市民も大会に関わる機会を創出し、市のPRやスポーツでつながるまちづくりにつなげていくよう努める。					

事業4		つくばスポーツフェスティバル&つくパラの開催		担当課	市民部スポーツ振興課	
指標値	令和7年度	目標値	1,200	人	指標評価	4
参加者数		実績値	964			
	令和8年度	目標値	1,200			
事業概要		民間企業を始めとした各団体におけるスポーツ活動について、出展ブースが一堂に会することで個々の活動が市民に広く周知され、市民における継続的なスポーツ活動に繋がる。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		スポーツを楽しむ機会を市民に提供するとともに、障害者スポーツへの理解を深めることで、多様な関係者間の「つながり」を創出することができた。また、出展した各団体のPRを行うことができた。 今後も、混雑による不快感の増加など、来場者の満足度低下に繋がらないよう考慮しながら、より多くの市民にスポーツを楽しむ機会を提供していく必要がある。				
令和8年度 事業計画		共同主催者となる民間企業及びつくば市スポーツ協会、並びに、地域スポーツの実施主体となるスポーツ団体等との連携を密にした上で、各ブースにおける実施種目や適切な配置場所等を検討しながら、引き続き市民にスポーツを楽しむ機会を提供していく。				

事業5	つくばウェルネスパーク管理事業（企画講座）			担当課	市民部スポーツ施設課	
指標値	令和7年度 教室等実施回数	目標値	2,982	回	指標評価	4
		実績値	2,515			
		令和8年度 目標値	2,982			
事業概要	つくばウェルネスパークについて、指定管理者制度による民間業者の運営方法を活かした効率的な管理運営を行う。また、スポーツ施設個別施設計画に基づく施設の保全・改修を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	指定事業として、教室・講座を569回、プールやスタジオを利用したレッスンを1,599回、短期水泳教室を146回実施した。自主事業として、201回の教室を実施した。 4月から8月にかけて配管工事に伴う長期休館、11月及び2月に臨時休館があったことにより、目標値に対し実績が少ない。					
令和8年度 事業計画	指定事業として、教室・講座を779回、プールやスタジオを利用したレッスンを1,787回、短期水泳教室を176回実施する。自主事業として、240回の教室を実施する。引き続き、事業充実を図るとともに、施設広報に力を入れ利用者数増を目指す。					

事業6	つくば市民・学校プール管理事業（企画講座）			担当課	市民部スポーツ施設課	
指標値	令和7年度 教室等実施回数	目標値	2,697	回	指標評価	5
		実績値	2,749			
		令和8年度 目標値	2,697			
事業概要	つくば市民・学校プール（愛称「みどりのプール」）について、指定管理者制度による民間業者の運営方法を活かした効率的な管理運営を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	指定事業として、プール教室を1,869回、トレーニングルームやフロアで行う講座を880回実施した。令和6年度よりも約400回増やしており、目標値を達成することができた。					
令和8年度 事業計画	指定事業として、プール教室を2,037回、プールやスタジオを利用したレッスンを660回開催する計画としている。引続き指定管理者との連携を密にし、利用者ニーズの高い教室や講座、魅力的なイベントについて指定管理者と協議、検討し、実施していく。					

事業7		サイクルパークつくば管理運営事業（企画講座）		担当課	都市計画部サイクルコミュニティ推進室	
指標値	令和7年度	目標値	6,250	人	指標評価	5
延べ利用者数		実績値	7,024			
	令和8年度	目標値	6,500			
事業概要		ナショナルサイクルルート「つくば霞ヶ浦りんりんロード」、ヒルクライムコースで有名な筑波山不動峠等を楽しむサイクリストやBMXレーシング競技者等が利用する拠点を運営する。また、BMXレーシング等の大会の誘致や自転車イベント等を開催する。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		【成果】 ・令和6年4月1日から指定管理者制度を導入し、サイクルパークつくばの運営を行い、利用者アンケートの結果、満足度95.1%と高い評価を得た。 ・サイクルパークつくばにて自転車イベント「PEDAL DAY GO Mt. TSUKUBA」を開催した。 ・施設利用者の利便性向上を図るため、屋外トイレを整備した。 【課題】 利用者増のため、BMX利用者以外のサイクリストにも認知度向上を図る必要がある。				
令和8年度 事業計画		指定管理者と連携し、施設の運営を行う。11月に自転車イベント「PEDAL DAY GO Mt. TSUKUBA」を実施するほか、公益財団法人日本自転車競技連盟公認のレースを誘致する。また、指定管理者の自主事業として、4月から11月にかけてBMXレーシングの大会を開催し、随時BMXレーシングスクールも開講する。				

事業8	健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会			担当課	福祉部高齢福祉課	
指標値	令和7年度	目標値	550	人	指標評価	4
健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会参加者数		実績値	474			
	令和8年度	目標値	550			
事業概要	単位シルバークラブや高齢者団体へ広報紙等を利用して募集、茨城県健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会の予選会として市大会（グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、パタンク、輪投げ）を開催する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	高齢者が愛好するスポーツ競技を通じて、健康の保持増進や地域間の交流を深め、明るく活力ある長寿社会の増進に寄与することができた。運営委員の意見から、グラウンド・ゴルフの参加者が例年多いため本選出場者を128名とし、ゲーム数を県大会の内容に合わせ全2ラウンドから4ラウンドに変更した。 ゲートボール、パタンク、輪投げは上位2チーム、グラウンド・ゴルフは上位10名が県大会に出場した。 出場者の確保・増加のため、普段からのシルバークラブ内での活動活性化を図りつつ、大会の運営委員会で検討していく必要がある。					
令和8年度 事業計画	5月19日、22日にグラウンド・ゴルフの予選会を北部地区、南部地区それぞれで開催。6月4日につくば市大会を開催。 各競技の上位入賞者・入賞チームを10月開催の茨城県大会へ推薦する。					

分野	情報・科学・歴史・文化財		
方針	市民が情報リテラシーや科学的思考を身につけ、地域の歴史等について学ぶことで地域社会への理解を深め、市民主体の持続可能な社会を目指します。		
総合評価	A	評価の理由	本分野に係る事業全体は概ね良好に進捗している。 科学関連事業を筆頭に、研究学園都市のポテンシャルを活かし、つくば市民だからこそ体験できる事業を展開したことで、科学や地域社会への理解醸成に寄与した。 地域に密着した文化に関する講座の開催や、学習施設の運営を行うことで、市民の地域に関する関心や郷土愛を育成できた。また、ボランティアを育成し、各講座や施設内で活動の機会を提供することで、地域住民の社会参画を促進した。 今後、大学や研究所などの外部機関との連携をさらに進め、事業の活性化と充実化を図ることによりさらなる発展が見込まれる。 目標値が未達成な事業が散見されるが、各事業とも一定数以上の参加者があることから、事業自体は概ね好評を得ていると判断できる。
社会教育委員意見			

事業1	つくばちびっ子博士事業			担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	4,000	人	指標評価	3
つくばちびっ子博士専用サイト登録者数		実績値	2,537			
	令和8年度	目標値	3,000			
事業概要	市内の協力研究機関等を見学するか、ホームページから動画を視聴し、確認クイズの正解を記入する。 夏休み期間終了後、結果に応じて最優秀ちびっ子博士・優秀ちびっ子博士・ちびっ子博士に認定し、記念品を授与する。 対象者は、全国の小中学生。令和6年度よりメインコンテンツをデジタル化する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	現地開催と動画配信それぞれでクイズに「回答する形式で実施した。現場での参加者数は約50,000人を達成し、堅調に事業を運営できている。新作動画7本を制作し、専用サイトの動画クイズとして活用した。動画の満足度は91.1%であった。（アンケート回答数124名）本事業を通じて、子どもたちに科学の楽しさを体感させるとともに、地域愛の醸成を図った。 ちびっ子博士期間中のイベントについて、近年の猛暑の影響により屋外での開催が年々困難となっている。したがって、今後は各研究機関において屋内企画の充実を図るなど、対応策を検討する必要があると考えられる。					
令和8年度 事業計画	専用サイトの登録者数増加に向け、周知強化（広報紙・SNS・窓口案内等）と登録手順の改善（入力項目削減）を同時に進める。あわせて、ポイントを貯めることで限定壁紙がもらえるインセンティブ（特典）機能を整備し、参加者に登録のメリットを実感してもらうとともに、利用データを踏まえた継続的な改善により登録者の拡大を図る。					

事業2	つくば科学フェスティバル事業			担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	-	人	指標評価	-
来場者延べ人数		実績値	-			
	令和8年度	目標値	10,000			
事業概要	市内の各学校、高校、大学、研究機関等がつくばカピオを会場に科学実験や科学工作教室などを出展。主に青少年を対象に科学の楽しさや不思議などを体験してもらい、楽しみながら科学や理科への興味・関心を高めさせるイベントを開催する。令和4年度以降、隔年度の開催とする。				進捗状況 評価	-
令和7年度 成果・課題	(隔年開催のため実績なし)					
令和8年度 事業計画	市内の小・中・高校、大学、研究機関等が一堂に会し、主に青少年を対象に科学の楽しさや不思議さを体験してもらうイベントである。11月28日(土)につくばカピオを会場とし、各機関が特色ある科学実験や科学工作教室のブースを出展する。合計34団体(市内学校16団体、研究機関等18団体)が出展予定。					

事業3		つくば科学出前レクチャー事業		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	4,000	人	指標評価	3
講座参加者数		実績値	2,795			
	令和8年度	目標値	4,000			
事業概要		学校等の希望により、事前に登録した研究機関の研究員等と連絡調整し、現役研究員等を専門テーマの講師として派遣する。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		実施回数、参加者数ともに昨年度に比べて減少した。通常の授業に加えて授業参観日に講座を実施するなど、児童と保護者が一緒に学べる機会を創出した。 当事業では、市・学校・研究機関等の3機関が関わるため、フローが複雑化し、提出書類の漏れなどが発生したため改善を行っていく必要がある。				
令和8年度 事業計画		令和8年度でも引き続き業務の改善を実施し、適正な事業運営を行う。簡易的なフローを作成することで各機関への理解を図る。また、書類の提出漏れについては、フローの簡易化に加え、随時関係機関への連絡を行うことで改善を促す。				

事業4		次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業（科学教育推進事業）		担当課	政策イノベーション部科学技術戦略課	
指標値	令和7年度	目標値	200	人	指標評価	5
体験型科学教育事業の延べ参加者数		実績値	647			
	令和8年度	目標値	200			
事業概要	つくば科学教育マイスター制度や体験型科学教育事業等を通じて科学教育を推進する。 筑波大学と連携し、地域の特色ある研究者を紹介するコンテンツ事業とコミュニケーションを重視した体験型イベントを実施する。 SNS広告を活用し、科学技術関連情報に興味・関心を持つ層に対してニーズに応じた情報を発信する。 つくばサイエンス・アカデミーと連携し、飛躍的な研究成果が期待できる若手研究者につくば奨励賞を授与する。 科学の甲子園全国大会等の科学イベントを市内で開催する。				進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題	・地域が有する研究者と科学技術資源を学習素材としたSTEAM教育を市内小中義務教育学校のうち7校で実施した。 また、全国的女子中学生に多様な理系分野の魅力及び女性研究者の活躍を発信するイベントを7月、8月、1月に開催した。 ・Instagramに登録された属性情報を活用し、進路選択に悩む年代層（主に高校生～大学生）やその親世代（40歳～54歳）に対して、上述のコンテンツやイベントの認知度向上のためのSNS広告を6月、7月、10月、11月、1月に配信した。 ・令和4年度から連携を開始したZ0Z0によるキャリア教育について、令和7年度は15校で実施。栗原小学校と研究学園中学校においては、アパレル業界が抱える環境問題をテーマにしたSTEAM教育を実施した。 ・つくばサイエンス・アカデミーと連携のもと、つくば奨励賞を実用化研究部門副賞及び若手研究者部門副賞を授与した。					
令和8年度事業計画	体験型科学教育推進事業として、学校でのSTEAM教育授業への研究者派遣支援と、社会教育としての体験型イベントの開催を推進し、STEAMコンパスというブランドを確立、市民への周知に努める。また、科学教育マイスター制度、研究者ロールモデル発信等を通じて、市民の科学技術に対する理解醸成を進める。					

事業5		筑波山地域ジオパーク推進事業		担当課	経済部ジオパーク室	
指標値	令和7年度	目標値	1	回	指標評価	5
広域周遊ツアーの開催回数		実績値	3			
	令和8年度	目標値	1		進捗状況 評価	5
事業概要	・サイト等カルテ作成（保全対象の明確化と保全計画の基礎データベース作成） ・学校教育におけるジオパーク学習の推進（出前授業や教員研修の実施及び副読本の作成） ・ジオツーリズムの充実（認定ジオガイドのスキルアップ、ジオツアーの実施、認定商品の認定） ・協議会体制の強化（各部会活動の活性化、事務局運営体制の検討） ・パートナーシップ制度の検討（研究機関、茨城県、大学等） ・ビジビリティ戦略の検討（HP改修、絵本活用イベントの開催）					
令和7年度 成果・課題	・子ども向け絵本を活用した読み聞かせイベントや夏休み子ども向けイベント等を通して、筑波山地域ジオパークの認知度向上に資することができた。 ・今まで日本ジオパーク委員会から指摘された課題や地域内での課題を一から洗い出し、その対応策を反映した「筑波山地域ジオパーク基本計画・アクションプラン2025-2028」を策定することができた。 ・筑波山地域ジオパークの認知度向上に向けた取組を進める必要がある。 ・筑波山地域ジオパーク基本計画・アクションプランに基づき、ジオパーク関係者や地域の方々と共にジオパーク活動を進める必要がある。					
令和8年度 事業計画	引き続きプロモーション施策を始め、教育やツーリズム等の施策、日本ジオパーク認定10周年記念イベント等を実施し、筑波山地域ジオパークの認知度向上を図る。筑波山地域ジオパーク基本計画・アクションプランに基づき、ジオパーク活動を進める。					

事業6		読書推進支援事業（再掲）		担当課	教育局中央図書館	
指標値	令和7年度	目標値	160	回	指標評価	3
ボランティア等によるおはなし会等開催回数		実績値	115			
	令和8年度	目標値	160			
事業概要		・学校訪問ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、出前講座、ファーストブック講座、ライブラリーピクニックなど各種イベントの実施 ・ジュニア図書館員、社会科見学、職場体験学習、職場見学学習の受入れ ・司書教諭及び学校司書の研修協力などの学校図書館支援 ・図書館情報誌「ヨモツカ」、「こどもヨモツカ」の発行 ・利用者の調査研究に対する質問に応じ、必要とされる資料を検索、提供、回答する ・電子図書館サービスの提供			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		おはなし会の回数は目標値には到達しなかったものの、開催場所の見直し、内容の充実を図った。 各種イベントを実施することにより、読書推進及び図書館の利用促進を図ることができた。 電子図書館、レファレンス、相互貸借、文献複写等のサービスを提供し、利用者の調査研究を支援することができた。 参加者からの意見などからニーズを分析し、イベントの開催時期、内容、対象者の見直しを検討する必要がある。				
令和8年度 事業計画		内容等を見直しながら引き続きイベントを開催し、人や本がふれあう交流拠点として気軽に自由な図書館利用を促進し、読書に親しむきっかけを提供する。また、利用者の調査研究を支援し、更なる読書推進の取り組みを行う。				

事業7		図書館ボランティア事業		担当課	教育局中央図書館	
指標値	令和7年度	目標値	160	人	指標評価	5
ボランティア登録者数		実績値	178			
		令和8年度	目標値	160		
事業概要		図書館のボランティアに登録し、図書館の支援や生涯学習の一環として、その知識・技能を無償で提供いただく。			進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題		図書館ボランティアの活躍により図書館サービスの充実化を図るとともに、市民の活躍の場を提供することができた。 全体的に形骸化している傾向がある。				
令和8年度事業計画		引き続きボランティアの募集を行い、図書館の支援や生涯学習の一環として、知識・技能を提供いただく。 ボランティアの活動を見直し、活性化をはかる。				

事業8		文化財催事講座等事業		担当課	教育局文化財課	
指標値	令和7年度	目標値	2	回	指標評価	5
企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催回数		実績値	2			
	令和8年度	目標値	2			
事業概要		○市内展示施設を巡る巡回企画展を開催し、テーマに沿った講演会等を実施 ○古文書読解等の文化財講座の実施 ○平沢官衙遺跡歴史ひろば、小田城跡歴史ひろばにおける史跡活用催事の開催			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		各施設での常設展示のほか、巡回企画展と関連講演会等、夏休みの小中学生向けの体験学習会、古文書講座、史跡を活用した催事を開催した。 巡回企画展は10月～2月にかけて2会場で開催し、企画展1,873人、講演会106人、体験学習18人の来場・参加者を得た。古文書講座は夏期・冬期に各4回実施した。 アンケートの満足度平均は92%と高い満足度を得ることができ、実施により歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成できた。				
令和8年度 事業計画		巡回企画展及び企画展と関連した体験学習・講演会を実施するほか、夏期・冬期の古文書講座、夏休み時期に小中学生向けの体験学習会を実施する。 また、史跡を活用した催事も季節を通して実施することにより、多くの市民へつくば市の歴史や文化財を周知し、郷土愛の育成へつなげる機会を提供する。				

事業9		文化財サポーター事業		担当課	教育局文化財課		
指標値	文化財サポーターとして活動する人数	令和7年度	目標値	40	人	指標評価	4
			実績値	36			
		令和8年度	目標値	42			
事業概要		○解説ボランティア育成を目的とした講座・研修の開催 ○講座修了者からボランティア登録者を募り、展示施設や文化財の解説のほか、学校支援業務への協力、文化財の見回り、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施				進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題		ボランティア登録者の活動機会として、学校への展示説明や、企画展体験学習・講演会、文化財の清掃活動のほか、発掘調査作業見学等、知見を深めるための研修を兼ねた毎月定例会を実施し、年間を通してボランティア登録者の知見を深める場を設けることができた。 また、年間を通じて民間ボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田氏と小田城を解説するイベントを5月・3月に実施し、市民へ幅広く文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。					
令和8年度事業計画		新規のボランティアを増やすため「ボランティア養成講座」を実施するほか、既存ボランティアの意欲・関心が継続するよう、ボランティアへの研修を兼ねた毎月定例会を引き続き実施し、ほかにも「ちびっ子博士」等イベント時の解説など、参加の機会を設ける。 民間ボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」とも引き続き連携して、解説イベントなどを実施する。					

事業10	民有文化財補助事業			担当課	教育局文化財課	
指標値	令和7年度	目標値	-	(単位)	指標評価	-
		実績値	-			
	令和8年度	目標値	-			
事業概要	指定・登録文化財の管理・修理について、予算の範囲内で経費の一部を補助する。				進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題	国重要文化財旧矢中家住宅防災設備整備事業、同大塚家住宅火災報知設備点検事業、同大塚家住宅差し茅修繕事業、県指定文化財吉沼八幡神社本殿保存修理事業、同筑波山神社境内社殿島神社本殿保存修理事業、市指定民俗文化財百家竜水万灯保存事業、同妻木はやし保存事業、同田倉の三匹獅子保存事業の8件に対して補助をすることで、文化財所有者が行う適切な保存・維持管理を支援することができた。					
令和8年度事業計画	市内に所在する民有の国・県・市指定や国登録その他の文化財の所有者から申請があったものについて、予算の範囲内において継承に必要な経費を補助することで、当該文化財を保護する。					

分野	地域・防災・環境		
方針	市民の地域交流や防災、環境問題への理解を深め、主体的に学び、行動する力を育み、安全・安心で持続可能な地域社会を目指します。		
総合評価	A	評価の理由	分野内の事業はおおむね良好に進捗している。 市内全域で学校を核とした地域連携の基盤を整備することで、学校と地域の信頼関係を育む仕組みを構築することができた。また、学生ボランティアや地域住民の参画による、地域人材の育成・活用と同時に、子どもたちへの豊かな体験学習の提供も定着している。 防災に関する事業では、出前講座やイベント等を通じて、家庭や地域における防災対策の必要性を啓発し、市民の相互扶助による持続可能な地域社会を促進した。 環境に関する事業では、市民団体と協働した自然体験会を定期開催し、市民の身近な自然に対する理解を深める学習機会を提供することができた。 青少年健全育成事業も目標を達成し、地域ぐるみで青少年を育成する意識が醸成された。 一方で、イベント等の参加者数が低調な事業や、参加者が既存会員に限定される傾向が見られ、新規参加層の開拓が進んでいない。市民の活動意欲を高め、学習から実践への転換を後押しするために、市民ニーズの変化に対応した情報発信や支援を強化していく必要がある。
社会教育委員意見	(会議後、委員意見を記載)		

事業1		区会活動振興事業		担当課	市民部市民協働課	
指標値	令和7年度	目標値	600	視聴数	指標評価	1
人材づくりイベントの参加者数		実績値	187			
	令和8年度	目標値	600			
事業概要		区会に対して行政文書の配布回覧を委託し、行政情報を周知する。区会活動の紹介や加入促進活動などで日頃から助けあえる地域コミュニティの大切さを啓発する。区会から申請を受け、地区集会所建築等補助金交付要綱に基づき、集会所の新築・増改築・修繕に対し補助を行う。老朽化した地区案内板を撤去する。市長・区長サミット及び地区リーダー勉強会を実施する。			進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題		電子回覧の実証実験を132区会で実施した。紙回覧では、市から届く回覧文書を受け取る担当者（区長・役員・班長等）に負担が集中していたが、電子回覧にすることで、その負担を軽減することができた。また、地区集会所の建築等補助金については、修繕等32件の補助金を交付し、区会活動の支援ができた。				
令和8年度事業計画		区会に対して行政文書の配布回覧を委託し、行政情報を周知する。区会活動の紹介や加入促進活動などで日頃から助けあえる地域コミュニティの大切さを啓発する。区会から申請を受け、地区集会所建築等補助金交付要綱に基づき、集会所の新築・増改築・修繕に対し補助を行う。老朽化した地区案内板を撤去する。市長・区長サミット及び地区リーダー勉強会を実施する。				

事業2		市民チャレンジへの支援		担当課	市民部市民協働課	
指標値	令和7年度	目標値	30	件	指標評価	5
市民チャレンジへの相談件数		実績値	34			
	令和8年度	目標値	30			
事業概要	市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民活動団体等の新たな活動を支援する。 日常的な交流の場として気軽に立ち寄りやすい地域のコミュニティ拠点の設立支援や可視化を進める。 行政が行う事業を法人や各団体等と協働して行うことで、NPO活動等を活性化させ、より効果的・効率的な事業を展開する。 協同労働（労働者協同組合）という新しい働き方の周知を図るとともに労働者協同組合の設立を支援する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	市民活動に関する相談窓口を設置し、市民活動団体等の取組を支援した。協同労働（労働者協同組合）という新しい働き方について周知を図り、相談窓口を設置することで、労働者協同組合の設立に向けた支援を行った。既存の労働者協同組合に対して、労働者協同組合運営費補助金を交付した。					
令和8年度 事業計画	市民活動や労働者協同組合に関する窓口を設置し、市民活動の取組を支援する。					

事業3		アイラブつくばまちづくり補助金事務		担当課	市民部市民協働課	
指標値	令和7年度 補助金採択事業数	目標値	30	件	指標評価	4
		実績値	26			
		令和8年度	目標値	30		
事業概要	公募により提案された事業に対し、ヒアリング審査を経て、アイラブつくばまちづくり補助事業として決定し、「アイラブつくばまちづくり寄附基金」を活用して事業費の一部を補助する。毎年9月に、「アイラブつくばまちづくり表彰式・フォーラム」を開催、「アイラブつくばまちづくり寄附基金」への寄附者に感謝状の贈呈、アイラブつくばまちづくり補助事業実践団体に実践団体証の交付、活動事例発表や市民活動の課題解決に向けた講演会を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	「アイラブつくばまちづくり寄附基金」を活用し、公益的な事業に補助金を交付するとともに、担当課の協力により、協働で事業を実施することができた。					
令和8年度 事業計画	今年事業分の申請を7月17日(金)まで受け付ける（審査会は8月5日）。 「アイラブつくばまちづくり表彰式・フォーラム」は9月5日（土）に実施する。					

事業4		地域まちづくり支援事業		担当課	都市計画部都市計画課	
指標値	令和7年度 登録グループ数 (累計)	目標値	-		指標評価	-
		実績値	12	グループ		
		令和8年度	目標値	-		
事業概要	規則に基づき、市民等が地域で行うまちづくりについて、その活動状況を初期段階から4段階に分類し、それぞれの段階に応じた支援を行う。支援方策としては、市民向けの講座の開催や、登録グループ等へのまちづくり専門家の派遣、活動資金の助成等を行う。				進捗状況 評価	3
令和7年度 成果・課題	専門家の派遣回数が減少傾向にあるため、引き続き情報発信のあり方を検討する必要がある。また制度の創設から時間が経過し、市民のニーズが変化している。					
令和8年度 事業計画	引続き登録グループの求めに応じ、まちづくり専門家の派遣等の支援を行う。また、市民向け講座の開催により、市民等による自発的な地域まちづくり活動の啓発・推進を図る。市のホームページや市広報紙で制度の周知を行った上で、登録グループ数や専門家の派遣件数が増えない場合は、制度の見直しを検討する。					

事業5	地域振興推進事業（旧：地域拠点活力共創マネジメント事業）			担当課	都市計画部周辺市街地振興課	
指標値	令和7年度	目標値	210	人	指標評価	5
周辺市街地活性化協議会等の加入者数		実績値	291			
		令和8年度	目標値	220		
事業概要	各周辺市街地活性化協議会が自ら資金等を獲得し、自走化していくための運営・組織強化の支援。 対象地区 北条、小田、大曽根、吉沼、上郷、栄、谷田部、高見原				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	8地区の地域活性化協議会が、住民主体の地域イベントや周知活動を実施した。また、「R8まちづくり学校」の活動を通して、市民が地域活性化について考え、実践活動を行った。					
令和8年度 事業計画	引き続き、地元主体となった地域活性化協議会が自走できるように伴走支援を実施する。 また、関係人口創出のための新たな取り組みを実施する。					

事業6	市民活動支援事業（再掲）			担当課	市民部つくば市民センター	
指標値	令和7年度	目標値	9	回	指標評価	5
市民活動講座の開催回数		実績値	9			
		令和8年度	目標値	9		
事業概要	市民活動に有効な講座を企画・実施することにより、市民の主体的な活動を支援する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	市民活動団体及び市民活動に興味を持つ市民を対象に講座を実施し、市民活動に関する理解を広めるとともに活動を支援した。 市民活動支援講座の充実には、職員の専門知識の習得、最新情報の収集、市民活動団体との情報交換機会の拡大が必要である。					
令和8年度 事業計画	年9回の市民活動講座を企画・実施する。市民活動に関する相談等を通じて団体のニーズを講座内容に反映し、市民活動支援の質の向上を図る。					

事業7		放課後子供教室推進事業		担当課	こども・保健部こども育成課	
指標値	令和7年度 実施学校数（累計）	目標値	37	校	指標評価	5
		実績値	37			
		令和8年度	目標値	38		
事業概要	市内小学校及び義務教育学校において、余裕教室等を利用し、全児童対象に放課後子供教室を開催する。 地域住民の参画を得て、様々な体験活動や交流活動等を行い、豊かな遊びと学びの機会を提供する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	アンケート調査により、放課後子供教室の高い満足度と児童の要望を確認し、次年度の事業展開の参考とする情報を得ることができた。小学校等及び交流ひろばにおいて、地域住民の参画を得て放課後子供教室を実施した。 年に数回程度の放課後子供教室の開催を希望する小学校等はあるが、年間を通して放課後子供教室の定期開催を希望する小学校等が少ないことが課題。					
令和8年度 事業計画	交流ひろばに適正な人員を配置し、年間を通して放課後子供教室を開催する。 各小学校等へ活動内容や実施回数の希望調査を実施し、有償ボランティアの方々と連携して放課後子供教室を開催する。 令和8年度から、体験・探求を通して学び日々成長が実感できる学校を目指す小規模特認校制度が始まるため、制度導入校である栗原小学校と谷田部南小学校に放課後子供教室を紹介し、定期開催のニーズを喚起する。					

事業8		青少年健全育成事業		担当課	教育局生涯学習推進課		
指標値		令和7年度	目標値	3,000	回	指標評価	5
あいさつ・声かけ運動実施数			実績値	3,118			
			令和8年度	目標値	3,000		
事業概要		青少年相談員が中心となり、学校や青少年育成団体等と連携し、青少年の非行防止や青少年育成の各種事業を展開する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		通学路等での挨拶活動、普及啓発活動及び社会環境健全化活動、各地域での「青少年の健全育成に協力する店」の登録等活動を実施した。各月1回程度、支部長会議を実施し、各支部と情報共有及び連携を行った。挨拶活動を通して地域と家庭や青少年の関係が構築され、協力店の登録により地域ぐるみで青少年の健全育成を行う意識の醸成が促された。					
令和8年度 事業計画		「青少年相談だより」の発行、「青少年の健全育成に協力する店」の登録活動（7～12月）、あいさつ・声かけ運動の推進、地域における巡回活動等を行う。					

事業9		青少年育成団体支援事業		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	30	件	指標評価	3
子ども体験事業補助金交付件数		実績値	21			
	令和8年度	目標値	30			
事業概要	青少年の健全育成事業を展開する団体（青少年を育てるつくば市民の会、つくば市子ども会育成連合会）に対し補助金を交付し、青少年の健全育成活動の推進を図る。また、市内の青少年育成諸団体が、子供の健全育成を進めるために実施する子供の体験活動を内容とする事業に対し、その経費の一部を補助する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	異年齢の集団による仲間づくり活動や地域の保護者と共に行う活動を通して、地域コミュニティ構築の一翼を担えた。青少年育成関係諸団体、地域や学校等と協力しながら事業を展開することにより連携が強化され、地域社会で青少年を健全に育成するという機運を高めることができた。青少年の健全育成のための有益な体験事業への参加を促進し社会力育成に寄与することができた。					
令和8年度 事業計画	青少年を育てるつくば市民の会、つくば市子ども会育成連合会への補助金を交付する。また、つくば市内の青少年育成諸団体が実施する子供の体験活動を内容とする事業に対し補助金を交付する。					

事業10	二十歳の集い開催事業			担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	1,900	人	指標評価	5
参加者数		実績値	1,950			
	令和8年度	目標値	1,900			
事業概要	式典内容を企画し、当日の運営に参画する二十歳の方による実行委員会を立ち上げる。 広報紙、ホームページへの掲載、対象者への案内通知などの広報活動を行う。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	二十歳の方々で実行委員会を組織し、自ら企画・運営する二十歳の集いを開催することで、自分たちで意思決定、役割分担を体験し地域社会の担い手としての自覚と郷土愛を育むことができた。					
令和8年度 事業計画	二十歳の集い参加対象者による実行委員会を立ち上げ、式典の内容を企画し、準備や当日の進行等を実施する。					

事業11		青少年体験学習事業		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度 青少年体験学習 事業参加者数	目標値	60	人	指標評価	4
		実績値	54			
		令和8年度	目標値	50		
事業概要	市内在住在学の中高生を対象に企画募集し、青少年を中心とした地域交流・多世代間交流の体験学習を実施する。また、青少年の健全育成に資する団体の自主活動を支援、促進する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	「中高生向け防災教室＆小学生のための防災教室」では、災害中にできなくなることや必要になるものなど知り、周りの人と一緒に考え説明する力を身につけさせることができた。「アダプテッドスポーツを通して知る視覚障害の世界」では筑波技術大学と協力し視覚障害を体験する企画を実施し、障害について知りたいと思うきっかけを作ることができた。					
令和8年度 事業計画	「輝け！中高生わくわく企画」としてつくば市在住・在学の中高生を対象とした企画を行う。つくば市のごみの分類について、外国人が困りやすいポイントと伝え方を学び、外国人参加者と交流しながら伝えることを通じて社会課題解決のための行動を体験させる。					

事業12		社会力講座事業		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	5	回	指標評価	5
講座開催数		実績値	5			
	令和8年度	目標値	4			
事業概要	社会力を持った人材の育成について、社会力への気付き、社会力を持った人材を生かしていくコーディネーターの育成等多様な観点から講座等を展開していく。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	社会力を生かして活躍する方を講師として招き、チラシ作りや講座づくりなどを通して、参加者が実践して学べる講座を開催した。既に何らかの活動に取り組んでいる人に集客スキルを獲得してもらうことにより、地域の社会力アップに貢献してもらうことを目的とした。初めての参加者でも参加しやすいように、各講座完結型にした。（参加者134人） 受講後のアンケートの「『社会力』を生かした今後の活動意向」という回答は47%と低く、学んだことを生かし、地域の課題解決に取り組もうとする人材の育成については、まだ十分とは言えない状況にある。					
令和8年度 事業計画	令和8年度は講座を5回実施する（6月、8月、10月、11月、1月）。5回中2回は参加者同士のつながりを強めるため、体験講座とする。講座終了後のアンケート調査で「社会力」を生かした今後の活動意向が年々減少傾向にある現状を踏まえ、単なる知識習得に留まらず、受講者の実際の行動や意識変容を促すような講座カリキュラムの改善を提案できるようアンケート調査等を受講者に対し実施する。					

事業13		コミュニティ・スクール導入事業		担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度 導入学園数	目標値	18	学園	指標評価	5
		実績値	18			
		令和8年度	目標値	18		
事業概要	1つの学園に対し3年度のスケジュールで導入を行っていく。初年度は立ち上げ準備を行い、2年度目に準備組織としてコミュニティ・スクール推進会議を開催し、3年度目にコミュニティ・スクール協議会を設置し本格的な運営を行っていく。令和7年度末を目途に市内全学園での導入を目指す。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	コミュニティ・スクール協議会を新たに6学園設置。本格導入の前段階としてのコミュニティ・スクール推進会議を3学園で開催した。これにより、市内全18学園にコミュニティ・スクールを導入し、学校を核とした地域全体のつながりを生む基盤が整備された。 コミュニティ・スクール協議会の円滑な運営を支援していくとともに学校内や地域へコミュニティ・スクールについての周知を行っていく。					
令和8年度 事業計画	全学園にコミュニティ・スクール協議会を設置。各学園において年3～4回開催される協議会の運営について、支援を続けていく。また、コミュニティ・スクールだよりを発行し、教職員研修や地域団体での出前講座を積極的に実施してコミュニティ・スクールに関する周知を図る。					

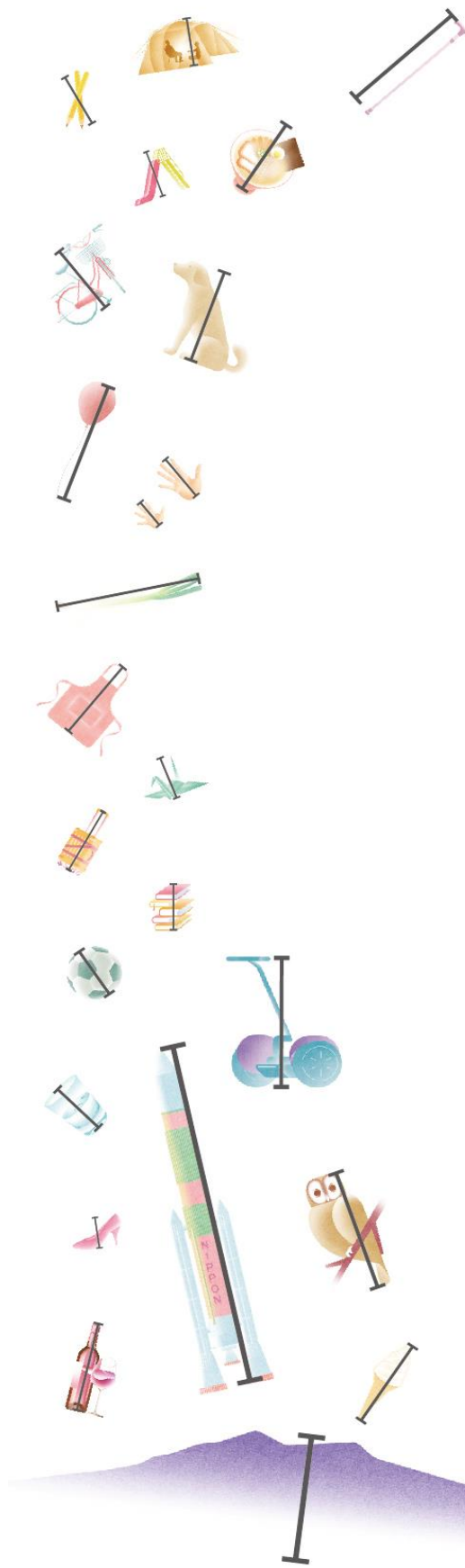
事業14	つくば未来塾事業			担当課	教育局生涯学習推進課	
指標値	令和7年度	目標値	1,550	時間	指標評価	4
学習チューター派遣延べ時間		実績値	1,493			
		令和8年度	目標値	1,550		
事業概要	大学生（筑波大学及び近隣地域の大学と連携）及び地域ボランティアを市内全中学校及び義務教育学校（後期課程）へ派遣し、生徒の学習支援を行う。				進捗状況評価	4
令和7年度成果・課題	生徒の学習支援において、大学生・大学院生及び地域住民の広範な協力を得られた。学習チューターとの関わりで、わからない問題を理解することができた生徒が多数見られた。多くの生徒が集中して学習に取り組むことができ、学習環境の整備が意欲向上につながった。地域住民の力を生徒の学力向上に役立てるとともに、学校と地域の信頼関係を育むことができた。 学習支援が必要な生徒への参加促進、学習チューターの指導力向上が課題となる。					
令和8年度事業計画	全中学校において、つくば未来塾を実施する。 国・県補助金の減少に伴い実施時間を前年度に比べ3割程度縮小して実施する。 初めて参加するボランティアを対象とした事前オリエンテーションの実施や、生徒アンケートによるフィードバックを今年度も継続して行い、学習チューターの指導力向上を図る。					

事業15		防災講座等の実施		担当課	市長公室危機管理課	
指標値	令和7年度 啓発講座・イベント等実施回数	目標値	20	回	指標評価	5
		実績値	29			
		令和8年度	目標値	20		
事業概要		市民の自助を促すため、家庭での備蓄や家具の転倒防止、災害情報の収集のほか、女性に知っておいてほしい災害への備え等の重要性について、出前講座や防災イベント等を通じて啓発する。			進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題		・防災イベント等で災害への備えの啓発を実施（計8回）・シェイクアウト訓練の実施（9月 50,514名参加）・学校や区会等に対する出前講座を実施（18回）・地域防災リーダーミーティング開催（2回 8月、3月） 講座やイベント等を通じて家庭や地域における防災対策の必要性や方法について啓発し、幅広い層の市民に対して防災教育を実施することができた。一方で、災害を自分ごととして捉えることができない市民や災害時の適切な行動を理解していない市民が現時点でも存在している。 災害による被害を減らすため、市民一人一人の災害への備えや地域での防災活動など平時からの備えの重要性について、引き続き周知・啓発していく必要がある。				
令和8年度 事業計画		引き続き、幅広い層の市民に対して自助や共助の重要性を啓発する講座やイベント等を開催し、市民が自ら災害への備えや災害時の安全行動を実践するよう促す。				

事業16		つくばSDGsパートナー講座		担当課	政策イノベーション部企画経営課	
指標値	令和7年度	目標値	40	人	指標評価	2
講座への参加者数		実績値	16			
	令和8年度	目標値	15			
事業概要	SDGsをより多くの市民等に向けて自分ごとにしてもらうための普及啓発の実施の一環として、筑波大学と連携してSDGsに関するテーマの講座を実施している。				進捗状況 評価	3
令和7年度 成果・課題	SDGsパートナーズの個人会員に対して関連講座を2回開催した（11月「防災」と2月「生物多様性」）。課題は参加人数が少なかったことに加え、参加者のほとんどが顔見知りで、会員同士の新しい連携の創出には繋がらなかった。					
令和8年度 事業計画	筑波大学との協議により令和8年度は1回開催し、主催によるイベント開催は終了し、以後は各課等で実施している同様のイベントを会員に向けて周知する方針で事業を進めていく。					

事業17		筑波山自然環境教育事業		担当課	生活環境部生物多様性推進室	
指標値	令和7年度	目標値	2	回	指標評価	5
自然学習の実施回数		実績値	14			
	令和8年度	目標値	2			
事業概要	筑波山をはじめ里山、河川、市中心部に残された緑など身近な自然の良さについて知る機会や場を提供するため、観察会等を開催する。				進捗状況 評価	4
令和7年度 成果・課題	市民団体等と協働により、自然体験会（昆虫や植物等の観察や生き物スケッチ等）を開催した。 （全14回・309名参加） 市民の身近な自然に対する理解を深め、主体的に学ぶ機会を提供することができた。					
令和8年度 事業計画	「個の学び」を「地域の生物多様性保全」へとつなげる好循環を生み出すためには、市民が身近な自然に触れる機会を増やすことが有効であると考え る。そのため、今後も継続して定期的な自然体験会を開催する。					

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA



つくば市 社会教育推進体系

令和8年(2026年)4月

(対象期間)

令和8年度(2026年度)から

令和12年度(2030年度)まで

これからの
やさしさの
ものさし
つくばSDGs

体系策定の目的

つくば市では、これまで、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」の実現のため、様々な社会教育に関する取組を行ってきました。

この度、本市の社会教育が目指す姿像(理念)を明確にし、着実な社会教育の推進を図るため、「つくば市社会教育推進体系」を策定することとしました。

社会教育に関する事業を体系化して進捗を管理することで、社会教育全体の推進を図るとともに、分野ごとに進捗を評価することで、全体のバランスを確認しながら、さらなる社会教育の振興を図ることを目的としています。

社会教育に期待する役割

個

社会の変化に対応した学びの提供

多様なニーズに応じた学びの場

学校教育の学びを広げる

多様な市民が社会参加できる社会

生きがいづくり
地域とのつながりづくり

地域

より良い地域の創造

地域コミュニティの活性化

多世代間交流
個の学びの成果を活かした地域づくり

地域課題解決能力の向上

体系の期間

令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)までの5年間

目指す5年後の姿

本市では、誰もが学べる機会、環境を整え、まち全体で学ぶ雰囲気醸成されるまちを目指します。

具体的には、地域がゆるやかにつながり始め、人とつながる楽しさ、活動する喜びを実感し、個の学びの成果が発揮され、個の学びの意欲がさらに向上します。つながることで、新たな学び、活動へと発展します。そして困りごとを地域で解決する、または解決しようとする動きが生まれることを目指します。

体系の基本的な考え方

基本理念

「一人ひとりの成長と地域の創造」につながる つくばの社会教育

本市の社会教育は、個の学びがつながることで、地域社会の発展を生み出すという考え方を基盤としています。

全ての市民にとって身近で重要な学びを通じて、教育大綱が掲げる「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を実現します。つくば市社会教育推進体系では、この理念をより具体的な施策へ反映させるために、誰もが安心して学べる機会と環境を整備することに注力しています。これらを推進することで、地域がより良くなっていくという好循環が期待できます。

市民の学びの活動は単なる自己実現にとどまらず、ウェルビーイング（幸福度）の向上と、学んだ知識・経験を社会に還元する行動へと発展します。また、そのためには、市民が主体的に社会参画することが不可欠であり、一人ひとりが自ら学び、その成果を地域社会へ貢献することで、つくばはより豊かで活力のある地域へと進化していくのです。

つくば市社会教育推進体系

基本理念	分野	方針
「一人ひとりの成長と地域の創造」につながる つくばの社会教育	共生	多様な背景を持つ市民が、その能力を最大限に発揮し、生きがいを持って活躍できる地域社会を目指します。
	子育て・健康	家庭の教育力や市民の健康意識を高めることにより、生涯にわたって心身の健康を保ち、豊かで幸せな人生を送れる地域社会を目指します。
	知識・教養	急速に変化する時代に対応できる知識・教養を習得することで、市民の自己実現と社会参画を推進し、豊かで活力ある地域社会を目指します。
	芸術・文化	市民の文化的教養と創造性を育みながら地域文化の活性化を図り、社会参画を推進することで文化的で豊かな地域社会を目指します。
	スポーツ	生涯スポーツの推進、コミュニティの形成、競技力向上をとおして、市民の心身の健全な成長と社会的結びつきを推進し、スポーツの価値と喜びを享受できる社会を目指します。
	情報・科学・歴史・文化財	市民が情報リテラシーや科学的思考を身につけ、地域の歴史等について学ぶことで地域社会への理解を深め、市民主体の持続可能な社会を目指します。
	地域・防災・環境	市民の地域交流や防災、環境問題への理解を深め、主体的に学び、行動する力を育み、安全・安心で持続可能な地域社会を目指します。

〇つくば市社会教育委員条例

平成 2 年 3 月 27 日

条例第 8 号

(設置)

第 1 条 社会教育法(昭和 24 年法律第 207 号)第 15 条の規定に基づき、社会教育委員(以下「委員」という。)を置く。

(委員の定数及び委嘱の基準)

第 2 条 委員の定数は、16 人とする。

2 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が委嘱する。

(平 26 条例 12・令 4 条例 26・一部改正)

(委員の任期)

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員が委嘱されたときの要件を欠いたときは、委員の資格を失う。

(委任)

第 4 条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。

(つくば市筑波地区社会教育委員設置条例の廃止)

2 つくば市筑波地区社会教育委員設置条例(昭和 63 年つくば市条例第 62 号)は、廃止する。

附 則(平成 26 年条例第 12 号)

この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 4 年条例第 26 号)

この条例は、公布の日から施行する。

〇つくば市社会教育委員会議運営規則

平成 2 年 4 月 3 日

教委規則第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、つくば市社会教育委員条例(平成 2 年つくば市条例第 8 号)第 4 条の規定に基づき、社会教育委員(以下「委員」という。)の会議運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(議長及び副議長)

第 2 条 委員の会議(以下「会議」という。)には、委員の互選による議長及び副議長を置く。

(平 10 教委規則 9・一部改正)

(議長及び副議長の任期)

第 3 条 議長及び副議長の任期は、委員の任期中とする。

(議長及び副議長の職務)

第 4 条 議長は、会議を主宰する。

2 副議長は、議長を補佐し、議長に事故があるとき、又は議長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平 10 教委規則 9・一部改正)

(会議の招集)

第 5 条 会議は、必要のある場合に議長がこれを招集する。

(付議事件)

第 6 条 会議開催の日時及び場所は、会議に付議すべき事件とともに議長があらかじめ委員にこれを通知しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、会議招集の通知後に急施を要する事件が生じたときは、これを会議に付議することができる。

(定足数)

第 7 条 会議は、在籍委員の過半数が出席しなければこれを開くことができない。

(表決)

第 8 条 会議の議決は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(説明の請求等)

第 9 条 委員は、会議において議事に関する職員(以下「関係職員」という。)に対し、説明又は資料の提出を求めることができる。

(職員の会議出席等)

第 10 条 関係職員は、会議に出席して意見を述べることができる。

(平 10 教委規則 9・一部改正)

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
(つくば市筑波地区社会教育委員会議運営規則の廃止)
- 2 つくば市筑波地区社会教育委員会議運営規則(昭和 63 年つくば市教育委員会規則第 5 号)は、廃止する。

附 則(平成 10 年教委規則第 9 号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成 14 年教委規則第 15 号)

この規則は、平成 14 年 11 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年教委規則第 6 号)

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

つくば市社会教育委員名簿

資料4

任期（2年）：令和8年8月1日～令和10年7月31日

50音順 敬称略

No.	委員氏名	ふりがな	役 職 等	区分
1	阿部 治	あべ おさむ	立教大学名誉教授 (公社)日本環境教育 フォーラム理事長	学識経験者
2	阿部 久美	あべ くみ	つくば市立松代幼稚園 園長	学校教育関係者
3	飯塚 康弘	いいつか やすひろ	つくば市PTA等連絡協 議会会長	社会教育関係者
4	上田 孝典	うえだ たかのり	国立大学法人筑波大学人 間系准教授	学識経験者
5	植竹 智央	うえたけ ともひろ	For Everyone Study 代表 龍ヶ崎市市民活動センター 企画運営アドバイザー	社会教育関係者
6	笠井 広子	かさい ひろこ	認定NPO法人NGO未 来の子どもネットワーク 代表理事	家庭教育の向上に 資する活動をする者
7	金井 恵美	かない えみ	こども育成課放課後子供 教室コーディネーター	家庭教育の向上に 資する活動をする者
8	櫻井 良種	さくらい よしたね	茨城県立竹園高等学校 校長	学校教育関係者
9	高根 香織	たかね かおり	つくば市立今鹿島小学校 校長	学校教育関係者
10	丹間 康仁	たんま やすひと	国立大学法人筑波大学人 間系教育学域准教授	学識経験者
11	難波 聡子	なんば さとこ	つくば市社会福祉協議会 法人運営室長	社会教育関係者
12	藤岡 賢治	ふじおか けんじ	茨城県県南教育事務所 学校教育課 主査	社会教育関係者
13	間野 聡子	まの さとこ	NPO法人ままとーん理 事	家庭教育の向上に 資する活動をする者
14	水谷 浩子	みずたに ひろこ	つくば市青少年相談員連 絡協議会代表	社会教育関係者
15	都澤 みどり	みやこざわ みどり	つくばユナイテッドS u n G A I A G M	社会教育関係者
16	渡辺 峰子	わたなべ みねこ	つくば市議会議員	学識経験者



つくば市 社会教育委員の手引

令和8年（2026年）4月

つくば市教育委員会

これからの
やさしさの
ものさし
つくばSDGs

目次

1	はじめに.....	1
2	社会教育について	
	(1) 社会教育とは.....	2
	(2) 社会教育と生涯学習.....	3
	(3) 社会教育行政.....	3
3	社会教育委員について	
	(1) 社会教育委員の職務.....	4
	(2) 社会教育委員の役割.....	5
	(3) 社会教育委員の活動例.....	5
4	社会教育員の心得.....	6
5	おわりに.....	6

1 はじめに

社会教育委員にご就任いただき、誠にありがとうございます。社会教育委員は、地域における学びの充実と人づくり・まちづくりを支える重要な役割を担っています。その活動は、学校教育とは異なり、子供から高齢者まで、あらゆる世代の「学び」を対象とし、地域の実情に応じて柔軟に展開される点に大きな特徴があります。

今日、地域社会は人口減少や価値観の多様化、つながりの希薄化など、さまざまな課題に直面しています。そのような中で、人と人とを結び、学びを通じて地域の力を高めていく社会教育の役割は、ますます重要になっています。社会教育委員には、住民の声に耳を傾け、行政や関係機関と連携しながら、より良い学習環境づくりに向けた助言や提言を行うことが期待されています。

本手引は、新たに社会教育委員となられた皆様が、その役割や活動内容を理解し、安心して一歩を踏み出せるよう作成しました。日々の活動の中で迷ったときや振り返りたいときに、指針としてご活用いただければ幸いです。地域の未来を育む担い手としての歩みが、実り多いものとなることを願っています。

つくば市社会教育委員のスケジュール（予定）

令和8年度

8月：第1回社会教育委員会議

（委嘱状交付、R7年度実績報告、R8年度事業計画）

11月：第2回社会教育委員会議（諮問、協議）

3月：第3回社会教育委員会議（諮問について協議）

令和9年度

6月：答申取りまとめ（メール）

8月：第1回社会教育委員会議

（答申書提出、R8年度実績報告、R9年度事業計画）

3月 第2回社会教育委員会議（社会教育案件について協議）

2 社会教育について

教育とは、「教え育てること。人に対して、他から意図的に働きかけて、その人を望ましい方向へ変化させ、価値を実現する活動」(広辞苑参照)と言われます。教育基本法では、教育の目的に「人格の完成」と「心身ともに健康な国民の育成」を掲げています。この教育は、行われる場によって、大きく、家庭教育、学校教育、社会教育に分けられます。社会教育とは、社会の場において行われる教育のことなのです。

社会教育は、地域住民が主体的に学び、その成果を社会に還元する「**人づくり・地域づくり・つながりづくり**」の役割を担っています。

(1) 社会教育とは

社会教育とは「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)」(社会教育法第2条)と示されており、その主体や内容は多岐に渡ります。

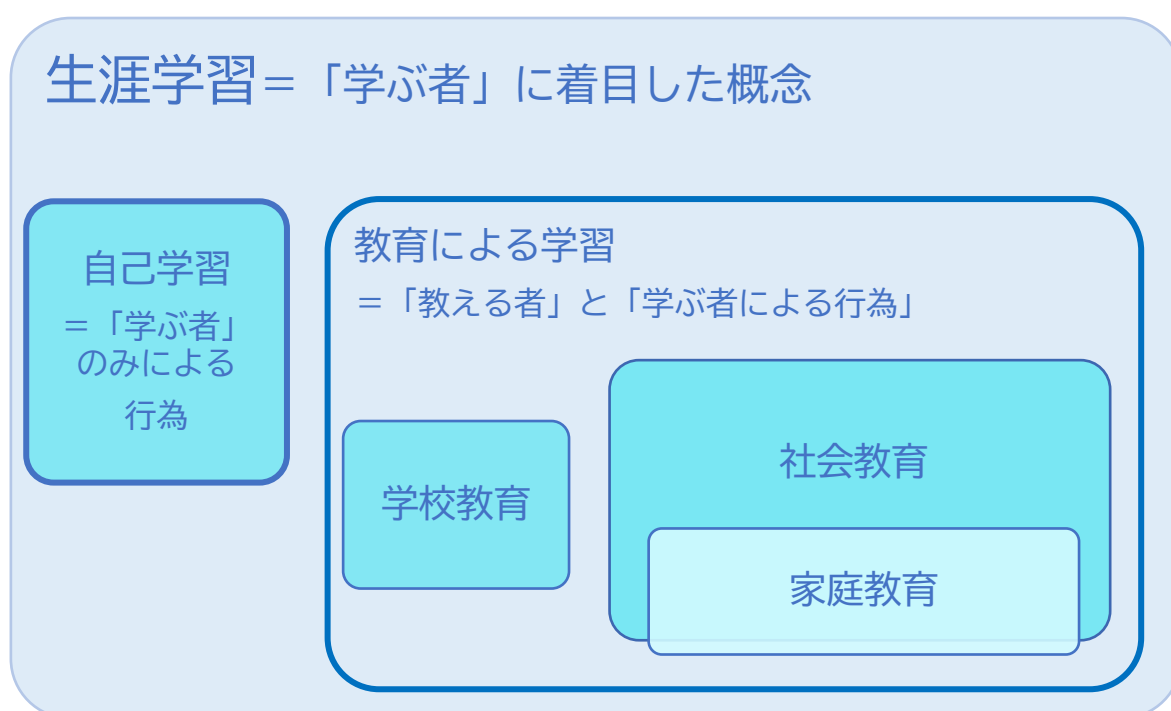
定義	・学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育・レクリエーションを含む)
目的	・個人の生涯にわたる学習支援(人づくり) ・地域課題の解決(地域づくり) ・つながりの創出(つながりづくり)
主体	・自治体 ・地域の社会教育団体・ボランティア ・地域住民 ・企業・民間教育機関 など
内容	・社会教育施設を活用した学習 ・文化・芸術・スポーツ活動 ・ボランティア活動 ・職業教育 など

社会教育は地域社会の多様なニーズに応じて柔軟に展開される、生活密着型の教育活動といえます。

(2) 社会教育と生涯学習

社会教育と似た言葉に「生涯学習」があります。生涯学習とは、人生のあらゆる段階で自発的かつ継続的に学び続けることを指し、個人の能力開発や社会参加を促進する活動全般を含みます。

社会教育は生涯学習の中核的な要素であり、生涯を通じて誰もが学び続けるための機会と環境を提供する役割を担っています。社会教育は生涯学習を具体的・体系的に推進するための地域教育活動であり、生涯学習社会(人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会)の形成に不可欠な役割を果たしています。



上の図のように、生涯学習は人生全体にわたる広義の学びを指し、社会教育は其中で地域の主体による制度的かつ継続的な教育活動として位置づけられています。社会教育委員の皆様は、社会教育環境の充実を図り、地域の生涯学習を支える重要な役割を担っています。

(3) 社会教育行政

国や地方公共団体が行う社会教育行政とは、財政的援助、施設の設置・管理、講座の開設、資料配布等の事務を行うことをとおして、住民に学習意欲を喚起し、実際に学習に取り組む機会と場を提供し、学習活動全般を奨励することです。

市町村の役割は、地域の社会教育活動を活性化することで、**住民相互の関係性が深まる**ように、また、**住みやすい地域づくり**に繋がるようにすることです。

3 社会教育委員について

社会教育委員の設置は任意ですが(社会教育法第 15 条)、全国の市町村で 96.5%、茨城県では 100%の設置率となっており、委員はそれぞれの市町村の条例によって委嘱されます。また、社会教育委員は非常勤の特別職の公務員です。

(1) 社会教育委員の職務

社会教育委員の職務については、法律で次のように定められています。

【社会教育法】

第十七条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

- 一 社会教育に関する諸計画を立案すること。
 - 二 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。
 - 三 前二号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。
- 2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べるができる。
- 3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

これを詳しく説明すると、次の①～⑤のようになります。

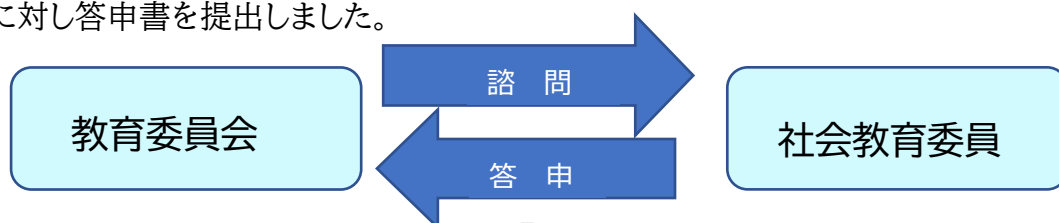
①社会教育に関する諸計画の立案

社会教育に関する諸計画とは、地域社会や自治体などが、住民の生涯学習や社会教育活動を促進・支援するために策定する計画のことを指します。社会教育委員には、社会教育に関する年間事業計画や社会教育計画に住民の意向や地域の課題を反映させることが期待されます。

②教育委員会の諮問に応じ、意見を述べること

教育委員会で扱われる事案のうち、社会教育に関することで意見を聞きたいものについては、社会教育委員に対して教育委員会が「諮問」を行います。これに対して、社会教育委員の会議が開かれ、多様な専門性を有する委員の意見を集約し、「答申」という形で意見を提出します。

つくば市では任期ごとに諮問・答申を行っており、令和7年度には、「地域も学校も共に活性化するためにコミュニティ・スクールはどうあるべきあきか」という諮問に対し答申書を提出しました。



③必要な調査研究を行うこと

社会教育委員は、①、②の職務を行うための調査研究を行うことができます。

例えば、住民の社会教育ニーズ調査として、地域住民がどのような学習や教養活動を求めているかアンケートや聞き取り調査を行ったり、地域の社会教育資源調査としてボランティア団体、指導者、地域文化・歴史資源など、社会教育に活用可能な資源を把握したり、社会教育施設の利用状況を調査し、利用者の満足度や改善点を把握するなどが挙げられます。

④教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べること

社会教育委員は、教育委員会会議に出席できます。この会議は地域の教育全般に関する重要な意思決定や計画策定の際は、社会教育委員が地域の教育政策に直接関わり、社会教育の視点から意思決定を支援する役割を担うことを示しています。

⑤青少年教育に関する事項について、助言と指導を与えること

青少年教育分野での専門的知識や経験をいかし、地域の関係者を支援して青少年の健全な成長を促進する役割を果たします。青少年健全育成団体への助言・指導などが挙げられます。

(2) 社会教育委員の役割

社会教育委員制度は住民参画型の行政の仕組みを表している制度です。委員は地域住民と行政の間にいる立場で**住民の声を行政に反映する**という大切な役割を担っています。また、社会教育委員は独任制(一人ひとりが独立した立場で職務を行うことができるということ)で、個人として調査研究を行ったり、教育委員会で意見を述べたりすることができます。社会教育との関わりをとおして「**自分の住んでいる地域を良くしたいという思い**」を全委員が共有すれば、社会教育委員の活動はより実りの多いものになるでしょう。

(3) 社会教育委員の活動例

社会教育委員の活動例として、以下のようなものが考えられます。

- <例1> 社会教育施設を視察し、施設の現状を把握する。
- <例2> 生涯学習についての住民の実態調査や意識調査を行う。
- <例3> 参考にしたい事例があれば、他市町村に出向いて意見交換を行う。
- <例4> コミュニティ・スクール協議会や放課後子ども教室など、地域が学校に関わる場に積極的に参画する。
- <例5> 互いの経験・知識を学び共有するため、委員同士が講師となって研修を行う。

4 社会教育委員の心得

社会教育委員として活動する際、委員の皆様に意識していただきたいポイントをまとめました。

- 一 地域に学び、地域とともに歩む
社会教育は地域に根ざした営みです。まずは地域の実情や人々の思いに耳を傾け、住民と同じ目線で考える姿勢を大切にしましょう。
- 二 つなぐ役割を意識する
行政・学校・地域団体・住民など、多様な主体を結びつけるのが社会教育委員の重要な役割です。人と人、活動と活動をつなぐ“**架け橋**”として行動しましょう。
- 三 学び続ける姿勢を忘れない
社会教育委員自身も学び手の一人です。新しい知識や事例を積極的に取り入れ、自らの視野を広げることで、より良い提言や支援につながります。
- 四 小さな変化を大切にする
社会教育の成果はすぐに見えるとは限りません。しかし、地域の中で生まれる小さな変化や成長に気づくことが、大きなやりがいにつながります。
- 五 未来への種まきを楽しむ
社会教育は、すぐに結果が出るものではなく、将来の地域づくりにつながる“**種まき**”です。その過程を楽しみ、次世代へつなげる活動に誇りを持ちましょう。

5 おわりに

社会教育委員としての歩みは、地域の人々の学びと成長に寄り添う、意義深いものです。その一つひとつの関わりが、人と人とのつながりを育み、やがて地域の力となっていきます。本手引が、皆様の活動の一助となり、自信を持って役割を果たすための支えとなれば幸いです。社会教育委員としての取組が、地域の未来をより豊かなものへと導くことを心より願っています。

つくば市教育局生涯学習推進課 社会教育係

〒305-8555

茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL:029-883-1111



つくば市 教育大綱

一人ひとりが幸せな人生を送るために

令和7年(2025年)3月

〔対象期間〕

令和7年度(2025年度)から

令和11年度(2029年度)まで

はじめに

つくば市はこどもたちに、一人ひとりの個性が受容され幸せな人生を送りながら、持続可能な社会の実現に向けて行動できる力を獲得してほしいと願っています。そして、こどもたちに、保護者、地域、学校、行政が寄り添いながら、こどもも大人も地域もともに育ち合っていきたいと思います。

そのような思いで、つくば市では、市の教育の根幹である「つくば市教育大綱」を令和2年（2020年）3月に策定しました。この教育大綱は、「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を最上位の目標としています。さらに、近代公教育が抱えてきた課題を踏まえ、①「教えから学びへ」、②「管理から自己決定へ」、③「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」の3つの転換を目指しています。その考え方をもとに、つくばの教育では知識の教え込みでなく自己・他者・社会を探究する「問いから始める学び」を進めています。

そして、教育大綱の理念を実現するため、「総合教育会議」において教育長及び教育委員と理念や学校現場の課題を繰り返し議論し、先生たちに伴走しながら授業や学校での実践を進めています。この理念は、学校現場をはじめ市全体へ浸透しつつあることから、今回の改定では本編を変更していません。引き続き、この教育大綱が変化し続ける社会で、教育の羅針盤となり、悩み迷った時にも立ち戻る拠り所になればと思います。

教育大綱をもとにした具体的な教育の中身は、教育委員会が策定する「つくば市教育振興基本計画」で定めています。つくば市は、今までも、これからも、こどもたちの笑顔を未来にわたって守っていくために全力を尽くすとともに、すべての人が生涯にわたり学び続けるまちでありたいと考えます。新しいつくばの教育を通して「誰一人取り残さないつくば」とともに創っていきましょう。

令和7年(2025年)3月

つくば市長 五十嵐 立青



目 次

I	つくばの教育が目指すもの・・・・・・・・・・	1
II	つくばで目指す考え方の転換・・・・・・・・・・	2
III	つくばの教育の柱・・・・・・・・・・	3
IV	つくばでの「学び」の特徴・・・・・・・・・・	4
V	つくばが目指す「学び」の場・・・・・・・・・・	6
VI	つくばの「学び」実現に向け、いま必要なこと・・・	7



I つくばの教育が目指すもの

つくばの教育は、
一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標とする。

- ① 一人ひとりが幸せな人生を送るために、各人の違いが受容されそれぞれが持っている多様で豊かな個性が花開く環境をつくる。
- ② 地域全体がその環境において一人ひとりの「善き生の実現能力⁽¹⁾」と、人と人がつながり、自主的に持続可能なより良い社会をつくるための「社会力⁽²⁾」を育てる。

(1) 善き生の実現能力とは、善き自己実現ができ、幸せな人生を送れる力のこと。

(2) 社会力とは、他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、より良い社会をつくろうとする力のこと。



Ⅱ つくばで目指す考え方の転換

近代公教育が抱えてきた課題を踏まえ、
考え方の転換を目指す。

- ① 「教え」から「学び」へ
一斉・一方向教育から個別・双方向の学びへ
- ② 「管理」から「自己決定」へ
受動から能動へ
- ③ 「認知能力⁽³⁾偏重」から「非認知能力⁽⁴⁾の再認識」へ
知識偏重の教育から全人教育⁽⁵⁾へ

(3) 認知能力とは、「IQ（知能指数）」のように数値化できる能力のこと。

(4) 非認知能力とは、「やる気」、「最後までやり抜く^{きがい}気概」、「リーダーシップ力」、「協調性」
などのような数値で測れない能力のこと。

(5) 全人教育とは、人間がもつ諸資質を、全面的かつ調和的に育成しようとする教育のこと。



— 2 —



Ⅲ つくばの教育の柱

「問いから始める学び」

知識の教え込みではなく、自己・他者・社会を探究する学びを目指す。

① 「自分自身は何者なのか」(自己を知る)

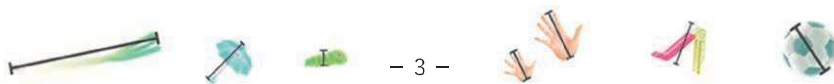
強み・弱み・得意・苦手・好きなこと・興味があること・成長したこと
(他者と比較した評価ではない)、自分の将来ヴィジョン、持続可能な世界
のために何ができるのか、などを問いながら、自分自身の人生を幸福に生き
る自由、つまり自己決定権(人生のオーナーシップ)を手に入れる。

② 「周りは何者なのか」(他者を知る)

どんな人物なのか、得意なことは、苦手なことは、素晴らしいところは、
などを問いながら、多様な存在と関わり合い、他者の価値を認め、それぞ
れの強みを活かしながら協働する力を手に入れる。個性、性別、障害、国籍、
宗教、文化などの全ての違いに目を向ける。

③ 「社会をどうやってつくるのか」(社会を知り働きかける)

自分はどんなまちに生きているのか、つくばにはどんな歴史や魅力がある
のか、地球環境からどんな恩恵^{おんけい}を受け生きているのか、など自己・他者・自
然との関係性によってつくり出される環境と社会に目を向け、より良い社会
をつくっていくために必要な学びの機会を得る。



IV つくばでの「学び」の特徴

持続可能な社会を目指すための教育への転換を、
着実に実行する。

① 一斉・一方向ではなく、個別・双方向の学び

一人ひとりの学びを大切にする。学校では、一斉・一方向授業ではなく、個別・双方向の学びや、学年の枠にとられない異年齢での取組を推進する。学習の進捗状況はもちろん、一人ひとりの個性や特徴、場面に応じて発生する障害や困難さ、母国語と異なる言葉での学習環境や経済状態などについても最大限に配慮^{はいりょ}し、社会全体でその環境に合った学びを実現する。評価は周囲との比較による点数ではなく、本人の成長に基づいて行う。

② 科学技術⁽⁶⁾や合理的精神を尊重する学び

つくばには科学技術に基づく多くの知的財産と、それを担う人材が集まっている。経験論や精神論を超えた未来を切り開いていく力を手に入れるために、つくばの多様な資源を活かした科学技術や合理的精神に基づいた学びを進める。

③ 批判的精神⁽⁷⁾を大切にする学び

物事を論理的に捉え、疑問を持ち、熟慮^{じゅくりょ}し、より良い思考へつなげる批判

(6) 科学技術とは、“自然科学”と“人文社会科学”を含めた「総合知としての科学技術」のこと。

(7) 批判的精神とは、目の前の表層的な事象や前提条件にとらわれず、客観的・多面的に分析し本質を問いつける態度のこと。



的思考を獲得する学びを進める。建設的なコンフリクト（衝突・葛藤）を積極的に起こし、対話をしながら合意点を見つけ行動することを学ぶ。こどもも大人も自由で平等な関係の中で批判的思考をし、問いを投げかける。

④ 実体験を大切にする学び

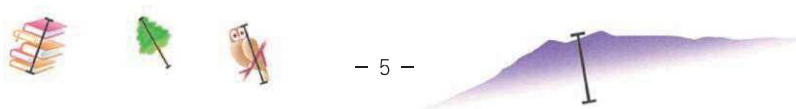
多様な文化と質の高い芸術、自然、蓄積された高度な科学技術など、つくばの恵まれた環境を活かし実物や実体験を通して学ぶことにより、対話的・協働的な学びの基礎をつくる。さらに、学びの中での試行錯誤を促すことで、こどもの好奇心を刺激し、こどもが持っている興味を掘り下げ、創造性と革新性の獲得を目指す。

⑤ 遊びによる、非認知能力を高める学び

「遊び」の価値を再認識し、自然の中で、一人で、複数人で、異年齢グループで、など様々な形の遊びを経験することで、挑戦する、やり抜く、自分で考えて動く、責任を持つ、リードする、ルールを作る、ルールを変える、教える、一人ひとりがより楽しめるようにする、などの創造的学びを得られる機会をつくる。

⑥ 持続可能な社会への視座を獲得する学び

短期的な経済合理性や産業社会発展のための知識獲得・能力開発ではなく、地球環境や人口・格差・貧困など人類共通の課題に触れ、持続可能な社会とより良い世界をつくるために必要な感性や視点、技術に関する学びを進める。



V つくばが目指す「学び」の場

つくばが目指す学びを実現するために、
学びの場についても転換を進める。

① 学びたくなる場所

学ぶことは楽しいことだと体感し、こどもが通いたくなる学校、学びたくなる社会をつくる。日常生活の中で感じたことや疑問、いつもの遊びなどが「学び」につながり、この学びの種が次の学びへの意欲を引き出すことで、学びの循環^{じゆんかん}が生まれる。

② こどもが自らつくる場所

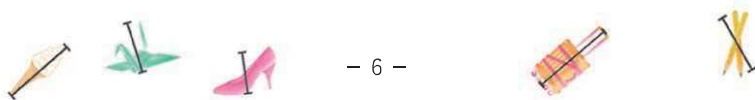
大人はこどもの目線に立ち、こどもの発想を認め、大切にすること。大人はこどもを管理するのではなく、主体的に問題に取り組むことを支援する。

③ 挑戦が称賛される場所

挑戦することは、リスクを負うこと、自分の知っていることと知らないことを明らかにすること、失敗しても回復し前進することを学ぶきっかけとなる。大人も積極的に挑戦し間違^{まちが}う（大人の無謬^{むびゆう}⁽⁸⁾性^{せい}からの脱却^{だつぎやく}）ことから考え学ぶ。挑戦や成功を目指しての失敗は周囲から称賛^{しょうさん}される。安心してリスクを取れる環境の中で挑戦と失敗を繰り返しながら、自ら変化を生み出す経験^{こうてい}をすることで自己肯定感^{じこうていかん}⁽⁹⁾を高めていく。

(8) 無謬とは、理論や判断に間違いのないこと。

(9) 自己肯定感とは、そのままの自分を認め受け入れ、自分を尊重^{そんじゆう}し、自己価値を感じて自らの全存在を肯定する感覚のこと。



VI つくばの「学び」実現に向け、いま必要なこと

保護者・学校・地域・行政が協力し、
社会全体でこどもの育ちの場を支える。

① 問い続け、学び続ける教師への支援

教師の役割は教え込みを中心とするティーチングから、問いを投げかけ主体性を引き出すコーチングへとシフトする。自分（教師）は学校を楽しんでいるか、こどもの学びを支援することを楽しんでいるか、こどもたちは学校や授業を楽しんでいるか、各人に合った学びができているか、こどもたちの成長のため一人ひとりが考える場をつくるにはどうすれば良いか、と絶えず問い続けることができる教師への成長を促し、そのための自主的学習を支援する。

② 教師がこどもと向き合う時間を増やすための、学ぶ環境の整備

多忙^{たぼう}を極める教師の働き方改革^{てっていてき}を徹底的に進める。教師と学校の自由裁量^{きい}^{りょう}^ど⁽¹⁰⁾を拡大することで、教師が直接こどもと向き合う時間を増やす。個別ニーズに合った学習やプロジェクト学習⁽¹¹⁾を進める上で、ICT 環境（機器）を効果的に導入する。

(10) 自由裁量とは、判断の基礎となるさまざまな材料について、他からの指図^{さうしゆ}や拘束を受けず、自由に選択^{せんたく}し考量^{こうりやう}すること。

(11) プロジェクト学習とは、学習者がチームを組み、自分たちで課題を設定し解決していく学習法のこと。



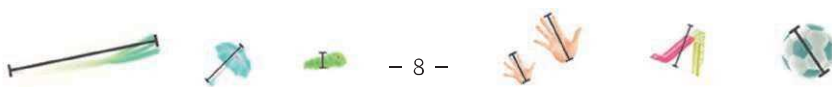
③ 保護者・地域・学校・行政がそれぞれの特性を活かし補完する関係性

保護者は家庭教育において、地域は人と社会の間での学びにおいて、学校は学校教育において、行政は公教育の整備において主体的な役割を担うが、その役割の範囲は明確に区切れるわけではない。それぞれが緩やかにつながりながらお互いの特性を活かし、補完し支え合う関係性を構築する。

④ 保護者・地域・学校・行政の対話と協働の推進

各地の人材・環境・資源・歴史・文化などの特徴を活かした、多様な立場の人が関わることを求められる学びの場は、それぞれの悩みや課題を共有し解決するための話し合いと合意形成の場である。課題解決のためにそれぞれが参画⁽¹²⁾し協働することで、一人ひとりの社会力が高まり、互いの信頼が生まれ、人間関係が醸^{じょうせい}成され、互恵^{ごけいてき}的で包摂^{ほうせつ}された地域が形成されることを目指す。

(12) 参画とは、物事に計画段階から主体的に加わること。



教育大綱策定までの歩み

本大綱の策定に当たり、多くの関係者、有識者からの御意見、事例紹介などをいただき、総合教育会議の中で議論を重ねました。

■総合教育会議：全 13 回

（会議構成員：市長、教育長、教育委員）

教育関係者講演会・意見交換：全 4 回



■関係者との意見交換

・校長会 平成 30 年 12 月

平成 31 年 1 月

・PTA 代表者 令和元年 5 月

・中高生とのタウンミーティング

令和元年 8 月

・パブリックコメント手続による

意見募集 令和元年 12 月～

令和 2 年 1 月



■海外の事例視察（オランダ）

・イエナプラン教育 平成 30 年 10 月



つくば市教育大綱策定メンバー

職名	氏名
市長	五十嵐 立青
教育長	～令和元年(2019年)12月24日 門脇 厚司
	令和元年(2019年)12月25日～ 森田 充
教育委員	鈴木 理子
教育委員	小野村 哲
教育委員	柳瀬 敬
教育委員	倉田 廣之

つくば市教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3の規定に基づき、市長が本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として定めるものです。



つくば市教育大綱の実現に向けて 【令和2年度(2020年度)～令和6年度(2024年度)】

つくば市教育大綱の実現に向け、総合教育会議において、本大綱の理念を実現する方法や取組などを複数回に渡り議論しました。また、有識者から講演や事例紹介などをいただき、意見交換などを行いました。

■総合教育会議：全24回（うち教育関係者講演会・意見交換：全4回）

■会議構成員：市長、教育長、教育委員

職名	氏名
市長	五十嵐 立青
教育長	森田 充
教育委員	柳瀬 敬
教育委員	倉田 廣之
教育委員	和泉 なおこ
教育委員	坂口 まり
教育委員	～令和6年（2024年）12月24日 成島 美穂
教育委員	～令和2年（2020年）12月24日 鈴木 理子
教育委員	～令和2年（2020年）12月24日 小野村 哲



つくば市教育大綱・総合教育会議 会議録はこちら ▶



－ 11 －



世界の
あしたが
見えるまち。
TSUKUBA

発行 つくば市

〒305-8555

茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL 029-883-1111

URL <http://www.city.tsukuba.lg.jp>

